

今、大阪から世界に広がる がん未来医療への挑戦！

『2025年大阪・関西万博』成功祈念・被災地支援

世界がん撲滅サミット 2022[®] 不可能の壁に風穴を開ける！ in OSAKA

THE World Cancer Eradication Summit 2022 in OSAKA

2022年11月3日(木・祝)

<https://cancer-zero.com>
参加無料(要入場チケット)

開場 12:30

開演 13:00

会場

大阪国際会議場
5階 メインホール



主催 世界がん撲滅サミット 2022 実行委員会

共催 アライアンス・フォーラム財団

協賛

株式会社大阪国際会議場、ロート製薬株式会社、東レ株式会社、株式会社ヤクルト本社、株式会社ツムラ
ダイダン株式会社、TOTO 株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、ALSOK 総合警備保障株式会社
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン、未来トラスト株式会社、一般財団法人 未来人材基金、PRD 株式会社
MCJ フィンテック株式会社、アーク不動産株式会社、OSPグループ、ジャパンエステート株式会社
都市環境開発株式会社、メディカルサービス株式会社、株式会社イデラキャピタルマネジメント
日本地工株式会社、株式会社オキ・コーポレーション、みやび坂総合法律事務所、株式会社重岡
岡山県極真空手道連盟 ほかの皆様(順不同)

協力

株式会社エクスプレス

後援

大阪府、大阪市、兵庫県、一般社団法人 大阪府医師会、大阪府医師協同組合、公益社団法人 関西経済連合会
一般社団法人 関西経済同友会、大阪商工会議所、外務省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、総務省
農林水産省、デジタル庁、AMED 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
公益社団法人 日本医師会、一般社団法人 日本癌学会、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所
公益社団法人 経済同友会、日本製薬団体連合会、一般社団法人 日本建設業連合会、一般社団法人 不動産協会
一般社団法人 生命保険協会、一般社団法人 日本損害保険協会、一般社団法人 情報サービス産業協会
一般社団法人 ソフトウェア協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN、読売新聞社

高円宮妃殿下お言葉

本日は第1回がん撲滅サミットの開催が盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとかがっております。1981年より日本人の死因第1位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前1500年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前1400年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんを蟹(かに)を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り返していく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、がん撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感じます。お身内ががん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーがうまれます。

かかげておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急につくりあげていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考えます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場に立って考えるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社会的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療には皆がアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

(2015年6月9日開催の第1回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました)

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA 提唱者 歓迎のご挨拶



中見 利男

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』代表顧問、提唱者
作家・ジャーナリスト

本日は『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』にお越しくささいまして誠にありがとうございます。

本大会を応援いただいた政府、財界、ご協賛社、さらに一般社団法人日本癌学会、大阪府、大阪市、兵庫県、関西経済連合会、大阪府医師会、大阪府医師協同組合をはじめとする皆様には心より御礼申し上げます。

さて、皆様のご支援によって『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』は今や世界レベルでがん医療界を牽引するリーダーとして、またインフルエンサーとしての地位を固めつつあります。

なぜなら 2022 年 9 月 12 日、米国のバイデン大統領はオールアメリカで 2047 年までにがんを撲滅しようと『がん撲滅』を国家目標に掲げたのです。

バイデン大統領は患者ファーストの実現のためにも早期にがん治療の新しい技術、すなわち未来医療の開発を目指し、同時に雇用を創出する。がん新治療のサプライチェーンを強化することで米国の地位を不動にする。また、がん予防と免疫治療の確立と進化、そして抗がん剤副作用の軽減化を矢継ぎ早に指示致しました。

今後、米国をはじめとする世界は我々が提唱してきたがん撲滅というニューフロンティアを目指して大きく動き出すことでしょう。

翻って我が国は今後、これまでの保守的ながん医療体制を早期に変革し、たとえば PMDA 関西支所に先端医療の審査機能を追加し、強化すること、承認申請に関する意思決定のガイドラインを早期に定めることなど、これまでの古い体質の審査機関を含めたがん医療を早急に変革していかなければなりません。

なぜならがん医療に関して言えば、鎖国の時代から、ついに開国への時代に突入したのです。海外の情報を吸収しながら健康長寿社会を全うする日本を世界に先駆けて構築することが重要です。いつまでも患者の皆さんが苦しむ治療が続いて良いわけがありません。実は米国が目指しているのはこういうことなのです。

どうか厚労省、国立がん研究センター、PMDA などの諸機関の皆様、変わることを恐れるのではなく、世界に取り残されることを恐れて下さい。

そういう意味で今や世界の先駆けとなった『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』が皆様にとって生命を輝かせる希望の光となれたなら望外の喜びであります。

本日は何卒よろしくお願ひ申し上げます。

世界がん撲滅サミット2022 in OSAKA

PROGRAM

12:30 開場 大阪国際会議場
13:00～13:30 オープニング、来賓ご挨拶並びにご紹介

世界がん撲滅への未来戦略講演

13:30～13:45 大会長講演 「公益資本主義が医療を変革する！」
アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原 丈人 先生

13:45～14:00 経産省講演 「経済産業省が取り組む未来のヘルスケア」
経済産業省 商務・サービス審議官 兼 商務・サービスグループ長 茂木 正 先生

14:00～14:15 米国代表講演 「米国が描くがん撲滅戦略2022」
シカゴ大学プレジジョン医療研究センター センター長・教授 マーク・J・ラテイン 先生
(世界のがん医療界の重鎮)

14:15～14:25 休憩

14:25～15:10 公開セカンドオピニオン [第1部]

世界がん撲滅サミット2022 in OSAKA 公開セカンドオピニオン® ～不可能の壁に風穴を開ける！～

司会：中見 利男 氏 (世界がん撲滅サミット2022 in OSAKA 代表顧問、提唱者/作家・ジャーナリスト)

- 小泉 雅彦 先生 (カプセル型小線源治療・サイバーナイフ・IMRT 等)
大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 生体物理工学講座 放射線腫瘍学研究室
(兼) 大阪大学医学部附属病院 放射線治療科 教授
- 中山 貴寛 先生 (乳がん)
大阪国際がんセンター乳腺・内分泌外科 主任部長
- 藤原 俊義 先生 (食道がん及びすい臓がん・テロメライシン ウイルス療法)
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 消化器外科学 教授
- 佐野 圭二 先生 (肝胆膵外科)
帝京大学医学部 外科学講座 教授
- 大圃 研 先生 (大腸がん、内視鏡手術の世界的権威)
NTT 東日本関東病院 消化管内科・内視鏡部 部長
- 山上 裕機 先生 (すい臓がん)
和歌山県立医科大学 探索的がん免疫学講座 教授、紀和病院 院長
和歌山県立医科大学 名誉教授・特別顧問
- 廣野 誠子 先生 (すい臓がん)
兵庫医科大学 消化器外科学講座 肝胆膵外科 主任教授
- 上園 保仁 先生 (統合医療、漢方)
東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座 特任教授
国立がん研究センター東病院 支持・緩和研究開発支援室 特任研究員
国立がん研究センター 先端医療開発センター 支持療法プロジェクト プロジェクトリーダー

- 鎌田 正 先生（重粒子線）
神奈川立がんセンター重粒子線治療 センター長
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 元病院長
- 清松 知充 先生（骨盤内腫瘍と大腸がん腹膜播種）
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 大腸肛門外科診療 科長・下部消化管外科 医長
- 高木 陽光 先生（プロバイオティクス）
ヒポクラテス・プロジェクト協力メンバー、株式会社ヤクルト本社中央研究所 微生物研究所 上席研究員
- 高村 僚 氏（すい臓がんサバイバー） ほか

15：10～15：20 休憩

世界がん撲滅への未来戦略講演

15：20～15：35 大阪代表講演

「がん撲滅 命輝く未来のデザイン—大阪・関西万博の挑戦—」

東京大学 特任教授、大阪府・大阪市特別顧問、前内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人 先生

15：35～15：50 厚労省講演 「がん対策加速化に向けて 2022」

厚生労働省 医務技監 福島 靖正 先生

15：50～16：05 日本代表講演

「がん治療における臓器傷害からの復活：Muse 細胞がリードする健康長寿社会の実現」

東北大学大学院医学系研究科 細胞組織学分野 教授 出澤 真理 先生

(Muse 細胞の世界的権威・発見者)

16：05～16：20 ノーベル賞級講演 「がん患者に夢と希望を！」

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・A I ホスピタルプログラムディレクター

東京大学・シカゴ大学名誉教授 中村 祐輔 先生

16：20～16：35 EU代表講演（事前収録） 「がん撲滅に向けたがん治療最前線 2022」

フランス・レオンベラルールセンター 教授 ジャン＝イヴ・ブレイ 先生

(2019 欧州臨床腫瘍学会 会長・肉腫等の希少がん治療の世界的権威)

16：35～16：50 大阪モノ作り講演 「下町ロケット、医療の空へ舞いあがれ！」

株式会社アオキ（ボーイング社認定工場）取締役会長 青木 豊彦 先生

(「下町ロケット」のモデルであり、大阪ものづくりのリーダー)

16：50～17：00 休憩

17：00～18：00 公開セカンドオピニオン [第2部]

18：00 閉会の辞 「世界がん撲滅大阪宣言 2022」

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA 開会式

ご来賓ご紹介

内閣総理大臣 岸田 文雄 様
(代読 大会長 原 丈人 様)

内閣総理大臣補佐官 森 昌文 様
(事前収録)

厚生労働大臣 加藤 勝信 様
(代理 厚生労働省 医務技監 福島 靖正 様)

経済産業省 商務・サービス審議官
兼 商務・サービスグループ長 茂木 正 様

東京大学 特任教授
大阪府・大阪市 特別顧問、前内閣総理大臣 補佐官 和泉 洋人 様

大阪府知事 吉村 洋人 様

香港中文大学医学部長、教授 フランシス・チャン 様

公益社団法人 関西経済連合会 副会長 園 潔 様

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』特別顧問
元厚生労働 事務次官、元内閣官房 政策参与 二川 一男 様

一般社団法人 日本癌学会 理事長
藤田医科大学 研究推進本部 がん医療研究センター 特命教授・センター長 佐谷 秀行 様

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルプログラム ディレクター
東京大学 名誉教授、シカゴ大学 名誉教授 中村 祐輔 様

大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授 坂口 志文 様

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長 松浦 成昭 様

公立大学法人 大阪 理事長 西澤 良記 様

神戸大学 副学長 近藤 昭彦 様

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』顧問
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長 清水 美博 様

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』大会長
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 会長 原 丈人 様

〈順不同〉

大会長 ご挨拶



原 丈人

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』 大会長
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 会長
(国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関)

冒頭、7月8日に凶弾に斃れた安倍晋三元内閣総理大臣に心より哀悼の意を表します。

さて、『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』 大会長として一言ご挨拶申し上げます。

おかげ様で新型コロナウイルス禍の中で本年も本大会を開催致します。

政府、経済界、医療界、そして各界の皆様、ご協賛いただいた皆様、関係者、患者の皆様にご心より御礼申し上げます。

今年は米国より世界的ながん医療の権威マーク・J・ラティン教授、アジア代表としてマイクロバイオマの世界的権威・香港中文大学フランシス・チャン医学部長、EUより2019欧州臨床腫瘍学会会長のジャン＝イヴ・ブレイ教授という世界のリーダーにもご参加をいただき、地球上の国々ががん撲滅に向けて連携することになった歴史的かつ画期的な大会となります。

振り返れば2013年、私は「天寿を全うする直前まで健康であることを実現できる世界最初の国に日本になる」というビジョンを掲げました。さらには、2050年までには人類を苦しめている6,500種類の難病も日本でなら治療の可能性があると世界的な国家をつくりたいと考えています。

新型コロナウイルス禍の中で苦しんだこの数年間、我々は失ったことも教訓として得られたこともあります。

そこで今大会のテーマは『今、大阪から世界に広がるがん未来医療への挑戦！不可能の壁に風穴を開ける！』と致しました。

がん患者がそこにいる以上、我々は現状に満足して立ち止まることは許されません。「がん撲滅」という人類のニューフロンティアに対し、不可能を可能に変えるため共に前進しようではありませんか！

岸田文雄内閣総理大臣が新しい資本主義として公益資本主義による改革を進める中でがん医療の世界にも公益資本主義の発想は必要です。

公益資本主義の理念で制度改革を行い、日本を、寿命を全うする直前まですべての国民が健康で生きることができる世界最初の独立国家にするには、まず第一に、がん撲滅をやり遂げねばなりません。

もう、がん撲滅は日本人だけの戦いではありません。人類全体の戦いにしなければなりません。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる2025年の大阪・関西万博の会場となる、ここ大阪の地で本日、私共はそれを実感していただける大会にして参ります。

内閣総理大臣 メッセージ



岸田 文雄

内閣総理大臣

「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」の開催、誠におめでとうございます。

はじめに、新型コロナウイルスとの闘いが続く中で、医学の進歩に向け、皆様が日々取り組まれていることに心より敬意の念を表したいと思います。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類の誰もが願う長寿社会を現実のものとししました。これからは、人生100年時代を見据え、健康長寿社会を更に進展させることが重要な政策課題です。

そのため、政府としても、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸の実現に向けた取組を進めています。

中でも、昭和56年から死因の首位を占めてきたがんへの対策に関しては、平成30年に第3期の「がん対策推進基本計画」を閣議決定いたしました。基本計画では、①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、②患者本位のがん医療の実現、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築、を全体目標に掲げ、総合的な取組を進めています。

加えて、本年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2022」（骨太の方針）では、全ゲノム解析等の推進や「がん対策推進基本計画」の見直しなどが盛り込まれています。

全ゲノム解析等の推進については、がん・難病に係る創薬推進等のため、臨床情報と全ゲノム解析の結果等の情報を連携させ搭載する情報基盤を構築し、その利活用に係る環境を早急に整備します。

また、がん専門医療人材を養成するとともに、新たな治療法を患者に届ける取組を推進する等がん対策を推進します。

「がん対策推進基本計画」の見直しについては、がん対策の一層の充実を図り、活力ある健康長寿社会進展の一助となるよう、本年度中の次期がん対策推進基本計画策定に向けた検討を着実に進めてまいります。

最後に、本会合がご参加の皆様にとって実り多きものとなることを心から祈念いたしまして、私のメッセージといたします。



加藤 勝信

厚生労働大臣

「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」の開催、誠におめでとうございます。がん患者や御家族の皆様をはじめ、医療従事者や医学研究者及び企業の方々等がお集まりになり、本サミットが盛大に開催されることは素晴らしいことです。開催に御尽力された関係者の皆様に、深く敬意を表します。

我が国においては、生涯のうちに国民の約2人に1人ががんに罹患し、昭和56年から死因の第1位であり続け、現在もなお3人に1人ががんで亡くなっているなど、がんは国民の生命と健康にとって重大な問題です。

厚生労働省としては、平成30年3月に閣議決定した「第3期がん対策推進基本計画」に基づき、「がん予防」、「がん医療の充実」及び「がんとの共生」を3本柱として、皆様が安心かつ納得できるがん医療や支援を受け、尊厳を持って自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現していきたいと考えております。

「がん予防」については、生活習慣の改善や、ウイルスや細菌の感染等の予防可能ながんのリスクの軽減、また、がん検診の受診率向上、がん検診の利益と不利益も踏まえた科学的根拠に基づくがん検診の推進や精度管理の更なる向上等に取り組んでまいります。

「がん医療の充実」については、令和4年8月に拠点病院等の整備指針を見直し、都道府県がん診療連携協議会の取組を強化・明確化すること等により、地域における連携協力体制を推進し、がん医療の均てん化を推進してまいります。

「がんとの共生」については、がん患者がいつでもどこに居ても、安心して生活し、尊厳を持って自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現するため、医療・福祉・介護・産業保健・就労支援分野等の関係者が連携し、効果的な医療・福祉サービスの提供や、就労支援等を行う仕組みの構築等に取り組んでまいります。

「第3期がん対策推進基本計画」については、本年6月に、現行の基本計画の進捗や評価について議論した結果を、中間評価報告書としてとりまとめました。その内容も踏まえ、現在、がん対策推進協議会において、がん対策推進基本計画の見直しに向けた議論を進めており、本年度中の次期がん対策推進基本計画策定に向けて、検討を進めていきたいと考えております。

最後に、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますの御発展、御健勝を祈念いたしまして、御祝いの言葉といたします。

大阪府知事 メッセージ



吉村 洋文

大阪府知事

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本サミット開催に御尽力された実行委員会や事務局の皆様をはじめ、関係者の皆様に深く敬意を表します。

がんは、我が国における死因の第1位であり、府内においても年間約7万人の方々新たにがんになり患し、約2万7千人の方ががんで亡くなるなど、府民の生命、健康、生活にとって大きな脅威となっています。

大阪府では、平成30年3月に「がんを知り、がん予防を進めるとともに、がんになっても心身ともに適切な医療を受けられ、安心して暮らせる社会の構築」を基本理念とする「第3期大阪府がん対策推進計画」を策定し、様々な取り組みを行ってまいりました。

まず、「がん罹患率の減少」に向けては、市町村や民間企業等と連携し、がん教育や検診の受診率向上等の取り組みを進めています。

また、「がん死亡率の減少」に向けては、がん診療拠点病院の機能強化やがん医療連携体制の充実などがん医療の充実を図るとともに、緩和ケアの推進に向けた啓発や提供体制の確保、人材育成などに取り組んでいるところです。

さらに、患者支援の充実に向けては、がん相談支援センターの機能強化や就労支援などを行っているところであり、今後も引き続き、関係機関と連携しながら、がん対策を推進してまいります。

大阪では、2025年に健康をテーマとして開催する「大阪・関西万博」が開催されます。本日のサミットで披露されます叡智が、がん撲滅に向けた大きな潮流となり、世界の健康・医療に貢献していくことを御期待申し上げます。

最後になりましたが、本サミットの盛会を心よりお祈り申し上げますとともに、本日お集まりの皆様のご健勝、ご多幸を祈念し、ご挨拶といたします。



松井 一郎

大阪市長

「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」の開催を迎えられますことを、心からお慶び申し上げます。また、本サミットの開催にあたりご尽力されました関係者の皆様に深く敬意を表します。

2025年4月に開催する大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、人間一人ひとりが、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を、国際社会が共創していくことを推し進めるものです。本市においても、大阪・関西万博の成功に向け、国や2025年日本国際博覧会協会、大阪府等と連携しながら開催準備に取り組んでおり、そのようななか、本サミットが、昨年に引き続き大阪の地で開催されますことに深く感謝申し上げます。

がんは、今や国民の2人に1人が生涯のうち1度は罹患すると言われていたほど身近な病気であり、本市におきましても長きにわたって死亡原因の第1位であることから、がん対策の推進は重要な課題となっています。

本市では、平成30年3月に策定した大阪市健康増進計画「すこやか大阪21（第2次後期）」におきまして、「全ての市民がすこやかで心豊かに生活できる活力あるまち・健康都市大阪の実現」をめざしており、がん対策としまして、がんの発症予防、がん検診の受診率向上、がんとの共生に関する取り組み等を推進しております。特にがん検診につきましては、市民のがん検診受診率50%を目標に掲げ、広く市民に受診啓発を行っているところです。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、市民生活や経済活動など多方面において厳しい状況が続いておりますが、本サミットで最新のがん予防・治療について知見を広げるとともに、がんにより失われる命が1人でも少なくなるよう、関係者の皆様とともにがん対策により一層取り組んでまいります。

最後になりますが、本サミットが実り多きものとなりますようご期待申し上げますとともに、ご参加の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いのメッセージといたします。

米国代表 メッセージ



マーク・J・ラテイン

シカゴ大学プレジジョン医療研究センター センター長・教授

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』に参加できることを光栄に思います。主催者、関係団体と協力して、世界中のがん撲滅という重要な問題に取り組むことを非常に嬉しく思います。

今や『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』は我々、世界の医療者にインスピレーションと勇気を与える存在です。米国ではバイデン大統領が「がん撲滅」を国家目標に掲げ、2047年までにがんとの戦いにピリオドを打つと宣言しました。今後、米国はがん撲滅に向けて力強く挑戦を開始していくことでしょう。

原丈人大会長、中村祐輔氏、そして何よりも提唱者である中見利男氏をはじめ、我々が尽力してきた活動が米国にエネルギーを吹き込む一助となったことは大変な喜びです。

しかも日米には、がん撲滅に向けた闘いで協力してきた長い歴史があります。例えば、2008年から中村祐輔先生をはじめとする日本の研究者と共同研究をしています。

がんのコントロールまたは根絶を成功させるための新しい治療法の実施には、技術的および財政的に多くの課題があります。大小の製薬会社やバイオテクノロジー企業によって、がん治療薬が1,300種類以上開発中です。しかし、新薬の価格は、地球の平均気温と同様に上昇し続けています。私たちは、医薬品開発と医薬品利用の効率を改善するための戦略を策定しなければなりません。そのためには少量による化学療法を徹底研究していく必要があります。さもなければ、薬へのアクセスは高価な薬品代を支払える人々に限られてしまいます。また同時に患者が陥る副作用の問題も解決できる可能性があるのです。

私たちのコラボレーションが世界中のがん治療の改善にどのような影響を与えることができるかを楽しみにしています。日米をはじめ世界の人々との継続的かつ連携するための努力を通じて、私たちはがん罹患しない世界に向かって進むことができるのです。



ジャン=イヴ・ブレイ

フランス・レオンベラルセンター 教授
2019 欧州臨床腫瘍学会 会長

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』の開催おめでとうございます。

今年は残念ながら新型コロナウイルスの状況によって大阪にお伺いできないことは残念でありませんが、開催に尽力された原丈人大会長、提唱者の中見利男氏、中村祐輔氏をはじめとする関係者の皆様、また先達の視点よりアドバイザーとして見守ってこられた牧野徹先生に心から敬意を表します。

今、世界は分子標的薬、ゲノム解析、免疫治療によるプレジジョン医療の時代に突入しています。たとえば今年、特定の直腸癌の治療において免疫チェックポイント阻害剤をファーストチョイスで用いた免疫療法が高い完全奏効率を示し、がんが消失。その結果、手術を回避できる可能性が報告されたことはがん撲滅に向けた本サミットにとっても重要なメルクマークです。

さらに免疫チェックポイント阻害剤は、がんのリスクが高い患者の予防戦略、すなわちがん予防薬としても可能性が期待されています。

このように世界の先端のがん医療はがん撲滅に向けて動き出しています。こうした動きの先駆けとなった本サミットの成功を心より応援しています。

アジア代表 メッセージ



フランシス・チャン

香港中文大学医学部長、教授

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』が大阪で開催されることを心よりお祝い申し上げます。また、がんとの闘いに尽力し、かつ世界をリードするがん撲滅サミットに感謝申し上げます。

がん予防と健康的なライフスタイルが人類にもたらすプラスの影響について、継続的に国民に啓発活動を行うことは実に重要です。

がんは常に人類にとって大きな脅威であり、世界的な死因の第一位となっています。

私たちは最終的なゴールであるがん撲滅のために、力を合わせて重要な措置を講じなければなりません。

この場をお借りして、日本国内閣総理大臣 岸田文雄氏、大阪府・大阪市特別顧問、前内閣総理大臣補佐官 和泉洋人氏、大阪府知事 吉村洋文氏、大会長 原丈人氏、中見利男氏、坂口志文氏、高木陽光氏、青木豊彦氏に心からのお祝いと感謝の意を表します。

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA ならびに 2025 年大阪・関西万博の成功を祈念しております。



中村 祐輔

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタル ディレクター
東京大学 名誉教授、シカゴ大学 名誉教授
2020年『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』受賞

がん死をなくす社会を目指して

2022年度のがん罹患数は約102万人、がんによる死亡者数は約38万人と予測されています。日本人の生涯がん罹患率は2人に1人、がん死は3人に1人という数字は変わりません (https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/short_pred.html)。しかし、罹患数と死亡数を臓器ごとで比較するとその差は極めて大きいのです。

乳がんの罹患数は95,000人、前立腺がんの罹患数は96,400人に対して、死亡数はそれぞれ15,600人、13,300人となっている。診断時と死亡時にはずれがあるものの、比較的予後のよいがんであり、特に早期発見の場合には5年生存率は95%を超えています。

それに対して、肺がん、すい臓がん、肝臓がん、胆道系のがんの予測罹患数128,000人、44,500人、40,400人、23,800人に対して、予測死亡数は75,100人、38,900人、23,300人、17,900人となっており、単純に計算すると罹患数の約60~90%が死亡していることとなります。これらのがんは早期発見しても5年生存率が低く、治りにくいがんに分類されます。

上記のデータから考えると、がん死をできる限りなくすためには(1)がん検診体制を強化して、早期発見できる患者の割合をできる限り増やしていくこと(再発をごく早期に診断することも重要です)と(2)治らないがんに対する治療法の開発を進めていくことが必要です。

私はゲノム研究に長年携わってきましたが、ゲノム解析技術の進歩が、がんの診断法や新しい免疫療法の開発につながりつつあります。血液や尿を利用したがん診断法(リキッドバイオプシー)やがんの遺伝子異常を利用した新しい免疫療法(ネオアンチゲン療法)などの実用化が視野に入っています。

毎年「がん撲滅サミット」には多くの患者さんや家族が会場に足を運ばれておられますが、がん治療を変革してがん死のない社会の実現を目指すには、患者さんの声が必要です。がんが日本人の死亡原因第1位となってから40年以上が経過しています。生存率は確実によくなってきていますが、依然としてがんと診断された人の3分の1以上の方が命を落としています。この病気を治る病気にするためにはしっかりとした国家的戦略が必要であるにもかかわらず、体系だった取り組みがなされていないのが実情です。

このがん撲滅サミットを皆さんと一緒に盛り上げて、もっと大きながん撲滅の機運を醸成していきたいと願っています。

ノーベル賞候補 メッセージ



坂口 志文

WPI大阪大学免疫学フロンティア研究センター・実験免疫学
特任教授

新しいがん免疫療法に向けて

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』の開催誠におめでとうございます。

がん免疫療法は、現在、新しい時代を迎えようとしています。ここ10年、抗CTLA-4抗体、抗PD-1抗体など、免疫共刺激分子もしくは免疫抑制分子シグナルを調節し抗腫瘍免疫応答を賦活化、強化するがん免疫療法の有効性が示されてきました。今後も、難治性がんに対しても効果的ながん免疫療法が開発され、がん免疫療法は、外科的切除、放射線療法、化学療法に続く第4のがん治療法として確立されていくでしょう。

一方、現在免疫チェックポイント阻害抗体は主として進行がんに使われていますが、将来に向けては、初期がんに対しても使える効果的ながん免疫療法を開発する必要があります。がん免疫療法では、がん細胞を特異的に攻撃するリンパ球が、がん抗原に対して特異的に感作され、活性化、増殖、そしてメモリーを獲得し、がん細胞を持続的に攻撃するのみならず、体内に隠れている、あるいは転移したがん細胞をも攻撃してくれることが期待されます。そのような強いがん免疫応答を惹起するためには、むしろ、体内にがんが見つかり、がんを取り除く前、すなわち、がん抗原が体内に存在する時点から免疫療法を始める方が効果的で、がんの転移の抑制、予防にもつながります。遺伝的にがんを発症しやすい人にも発症予防に使えるでしょう。

このような初期免疫療法の開発には解決すべきいくつかの課題があります。例えば、どのようながんに対しても有効な汎用性、また高い安全性が要求されます。経口での服薬が可能な簡便性も重要です。医療経済的には安価である必要があります。がん撲滅に向けて、「がんと診断されたその日から始める免疫療法」が実現できるよう研究を進めたいと思います。

本日のご盛会を心より期待しております。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長 メッセージ



國土 典宏

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』副大会長
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長

新型コロナウイルス感染症流行の第七波もやっと収束に向かう兆しを見せ、わが国でもポストコロナ社会に向けた準備が進みつつあります。パンデミックが始まって3年目に入り、我々は苦しい経験をしながらも多くのことを学びました。

がん診療に関しては、2020年の流行第一波の頃からがんを含む新型コロナ以外の疾患に対する診療の萎縮や治療の遅れが心配されてきました。日本対がん協会の調査によると2020年度のがん検診受診者数は27%減少し、2021年には回復したもののそれでも2019年の-10%の受診者数となっているようです。国民の通院控え、がん健診の遅れなどで進行してからのがん診断が増えているのではないかと医療者として心配してきました。ポストコロナの時代になってこの状況が完全に正常化することを願っています。

さて、がん撲滅サミットは今年で通算第8回となりましたが、昨年に続いて大阪での開催となります。本サミットは作家・ジャーナリストの中見利男氏が、がん患者死亡率を将来的にゼロにしていくなために、医療をはじめ、政府、官僚、経団連などの各界に呼びかけて「オールジャパンでがん撲滅に向けて立ち上がろう」と提唱したことから始まったがん撲滅ムーブメントです。2019年から前内閣府参与の原丈人様を大会長に迎え、さらにグローバルな視点からがん撲滅を考えるサミットになりました。昨年から日米に加えてEU代表講演も加わり、まさに「世界がん撲滅サミット」の名にふさわしい構成となっています。

恒例となりました公開セカンドオピニオンでは多くのがん治療のエキスパートにご登壇いただき、会場の皆様からの質問に答えていただくこととなります。昨年の第7回は多くの皆様にご来場をいただき成功裏に終了いたしました。今回もそれに劣らず素晴らしい『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』になるものと実行委員会の一人として確信しております。よろしくお願いいたします。

公益財団法人 日本対がん協会 会長 メッセージ



垣添 忠生

公益財団法人日本対がん協会 会長・国立がんセンター 名誉総長

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』の開催、誠におめでとうございます。

がんは高齢者に多い病気ですが、日本は超高齢社会に急速に移行しつつあり、今年間に100万人が罹患する時代を迎えました。

また、国民の2人に1人ががんに罹患する時代ですから、がんは誰にとっても無縁の病気とはいえない。私どもはそうした時代に生きています。

がんの5年生存率は、私が医師となった50年以上前には40%以下だったのですが、医療の進歩とともに上昇し、今や65%を越えています。もう直70%を超えるでしょう。そのため新しい問題として「がんと就労」つまり働きながらがんに向き合う、といった課題も生じてきました。つまり、がんは治る病気変わってきました。それなのに依然として世の中には「がん＝死」というイメージが氾濫しています。

そのため、がんと診断されると、多くの人々が「頭が真っ白になった」といい、治療中もいつ再発転移するかと怯え、疎外感、孤独感に苦しんでいます。

日本対がん協会では、この状態を何とかしようと、2017年6月に「がんサバイバークラブ」を立ち上げ、サバイバー支援を続けています。加えて、「がんで苦しむ人や、がんで悲しむ人をなくしたい」を念願して、がん予防・がん検診の推進、がん患者・家族の支援、正しい情報の提供に取り組んでいます。

がんのゲノム・エピゲノム情報が実診療に取り入れられ、新しい免疫チェックポイント阻害剤やCAR-T細胞療法などが保険診療に組み込まれるなど、がん医療は日々進歩しています。

10年先には、「がんは誰でもかかる可能性のある普通の病気の一つ」とそのイメージが変われば、がん患者、サバイバーに対する偏見や差別は自然に消えていき、がんを隠すことなくがん患者、サバイバーも明るく生きることができる時代が来るでしょう。昨今のコロナ禍によってがん検診は激減し、医療従事者、医療機関の疲弊は目を覆います。こんな事態に敗けないためにも「がん撲滅サミット」は、関係者の衆知を集めるという意味で、極めて重要です。

本サミットの大成功を心より祈念しながらメッセージとさせていただきます。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長 メッセージ



嘉山 孝正

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長
東京脳神経センター 所長、院長

新たな地平を目指した

「世界がん撲滅サミット2022 in OSAKA」の成功を祝って

2013年に中見利男先生が「がん撲滅サミット」の創設時から、本サミットは「がん撲滅」の目的を果たすべく毎回多くの課題を取り上げ、社会へ啓発してきた。本大会で取り上げる課題内容は毎回広範および深くなってきた。

今回、中見利男先生や本大会長の原丈人先生等「世界がん撲滅サミット 2022」実行委員会が提案した、がん撲滅の目的を果たすべき『がんサバイバーガード・プロジェクト』の中身は、従来本会が取り上げたがんに関連した課題だけではなく、がん患者及びサバイバーの医療的環境整備というワンストップ型のプロジェクトを加えた画期的な試みである。このプロジェクトは、従来の進歩を遥かに超越したものとする。

このプロジェクトを創設し加えることで、がん予防、先端医療の強化、抗がん剤治療のさらなる充実、すい臓がん治療の強化、そしてがん患者及びサバイバーの医療的環境整備という、患者さんというより国民が痛みや健康上の悩みなく大往生を迎えられる社会創設であるとする。

本「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」では「がんサバイバーガード・プロジェクト」の先陣を切って2019年に引き続き出澤先生のミューズ細胞の講演が組まれている。私は脳卒中も専門の一つなので、出澤先生の研究には大変興味を持っている。

一方、脳神経外科医である私の専門の一つが「脳腫瘍」だが、この方面では藤堂先生のご研究を本サミットが応援したことに大変感謝したいと思う。「脳腫瘍」が一般的に発生細胞の分類で「がん」と言われないので、「がん」と思われていないが、脳腫瘍はがんである。それも最も治癒が困難ながんである。その脳腫瘍が本サミットの応援を受けて羽ばたいたことも本サミットの大きな成果と思う。

今後このサミットはがんそのものに関する課題の解決とともにヒトの身体から病による全ての痛みから解放する、「人類をがんから解放しよう！」社会の実現に大いに貢献すると確信する。

大阪国際がんセンター 総長 メッセージ



松浦 成昭

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長

関西からがん撲滅を！

がん撲滅サミットは医療者だけではなく、政・財・官、そして患者・家族を初めとした市民の皆様も一緒になって、がんの撲滅を目的として行われるものです。患者さんの視点に立って、様々な分野の最前線で臨床・研究に取り組んでいる医療者が集まり、市民の方々と本音で意見交換をすることが最大の特徴です。日本人の2人に1人ががんに罹り、がんは国民病と言うべき時代になっていますので、オールジャパンとして始まりましたが、視野を大きく世界に広げて挑戦するということで、世界がん撲滅サミットへと発展を遂げました。誰もがこのサミットに結集し、実のある議論をすることにより、がんの撲滅に向けた大きな一歩になるようにしましょう。

がんの医療の治療成績は全体として大きく改善しましたが、依然として高度進行がん・再発がんに対する治療手段は不十分です。延命期間は延びていますが、最終的には不幸な転帰を避けることが難しい場合が多く、さらなる努力が必要です。また、がん医療の進歩とともに、患者さんが元の生活にもどるための支援を行うことも重視されるようになりました。がんが治ることはもちろん大切ですが、治ればそれでよいというのではなく、QOLを維持して、毎日の生活を送ることも同じくらい大事です。様々な支援を行うとともに、できるだけ負担の少ない治療法を考えていかななくてはなりません。

昨年に続いて、本サミットが大阪で開催され、関西人の立場から大変喜んでいますが。実は、関西地区はがんで亡くなる人の多い地域です。1990年代から2004年まで、日本全国の都道府県の中で大阪府はがん死亡率がワースト1位でした。お隣の兵庫県や和歌山県も良くなく、関西地域はがんで亡くなる人の多い地域でした。少しずつ改善傾向にあり、最下位の状況は脱しましたが、今でも後ろの方であり、まだまだがんばらないとという時に本サミットが開催される意味は大きいです。

先日、大阪国際がんセンターで患者さんお二人が本サミットを話題に雑談している光景を見ました。一人の方が昨年、参加されたようで非常に良かったと言うことで、今年はぜひ一緒に行こうともう一人の方を誘っておられました。このサミットも市民に浸透してきて、雑談の中に出てくるくらいになり喜んでいきます。

がん撲滅サミットは第一線のがんの研究者・臨床家が集いますが、主役はこのような一般市民の皆様です。このサミットでがん医療の最前線を知るとともに、十分に議論し意見交換することが大切です。受け身ではなく、攻めの姿勢・積極的な意気込みで皆の叡智を結集することが、名前の通りがんの撲滅をめざすことにつながります。一人でも多くの人の積極的な参加をお待ちしています。

公益社団法人 日本医師会 会長 メッセージ



松本 吉郎

公益社団法人 日本医師会 会長

「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」の開催を心よりお慶び申し上げます。

がん撲滅にむけては、予防と早期発見・早期治療が大切であることは論を俟ちません。がん検診の受診率向上のためには、国民一人ひとりに、がん検診の有効性や適切な受診について丁寧な説明が求められており、地域のかかりつけ医の役割は重要と考えています。

そのような中、2020年以降、我が国においては新型コロナウイルスが感染拡大を続けていますが、この間、がん検診や定期健康診断の受診率の減少、がんの手術が延期されるといった事例も報告されています。

がんに対する正しい理解の醸成とともに、検診受診による早期発見と早期治療の大切さについても、あらためて国民の皆様にも再認識していただくために、国、自治体、医療関係者等が一丸となって取り組むことも必要です。日本医師会のホームページでは、「知っておきたいがん検診」を設けるなど、より多くの方ががん検診を受診いただけるよう、啓発活動に取り組んでいます。

がん対策の推進については、関係者がそれぞれの立場で、引き続き着実な取り組みをしていかなければなりません。日本医師会としましても、今後とも、がん撲滅に向けて、がん対策のさらなる推進に取り組んで参る所存であります。

本日、関係者の皆様が一堂に会して本サミットが開催されますことは、誠に意義深いものと考えております。本サミットが実りあるものとなりますことを願いますとともに、関係者各位のご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 日本経済団体連合会 メッセージ



安川 健司

一般社団法人 日本経済団体連合会 審議員会副議長
アステラス製薬株式会社 代表取締役社長 CEO

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』の開催を心よりお慶び申し上げます。また、当サミット開催にご尽力されました関係者の皆様に深く敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症が長期化し、未だ世界では多くの苦難に直面しています。しかし他方では、ワクチン・検査の普及に加え、病態解明に向けた研究や新しい治療薬の研究開発により、当初に比べ様々な知見やデータが蓄積し、感染への備えも整備されつつあります。

がんにおいても、新たな治療への挑戦が日々行われており、治療法や診断技術が絶えず進化しています。当サミットでは、①PMDA 関西支部における先端医療の審査機能の追加、②「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」プランの支援が目標に掲げられています。また、この目標に関連したがんの先端医療実現に向けた取り組みとして、厚生労働省を中心に「全ゲノム解析等実行計画」も着実に進められています。こうした取り組みを進めるなかで、経済界が果たすべき役割の大きさを再認識すると共に、革新的な医療の実現（早期実用化）には、医療界および産学官が一体となった取り組みが不可欠と感じています。

新型コロナウイルス感染拡大により、我が国におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の遅れが顕在化し、ヘルスケア分野においてもDXの必要性が高まっています。経団連では、オンラインと対面を柔軟に組み合わせた、利便性の高い新たなかたちのヘルスケアの実現に向け、本年1月、提言「Society 5.0時代のヘルスケアⅢ～オンラインの活用で広がるヘルスケアの選択肢」を公表しました。本提言が描く、オンライン診療・服薬指導、来院に依存しない治験（DCT）等、デジタル技術を活用したオンラインによるヘルスケアの実現は、患者さんにとって、より利便性や質の高い新たな選択肢を提供するものです。オンラインと対面の最適な組み合わせにより、がんと向き合う患者さんやご家族の皆様に対しても、様々な場面において新たな可能性をもたらすものと期待しています。

がん撲滅を目指すには、全てのステークホルダーが垣根なく協力することが不可欠です。私たち経済界も、イノベーションを継続的に創出し、社会に価値を還元すべく挑戦を続けて参ります。

当サミットが、がんと向き合う患者さんとそのご家族の希望につながることで、ご参加いただいた皆様に実りある素晴らしいものとなること、さらには「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに2025年の開催を控える大阪・関西万博の成功を祈念しメッセージといたします。

公益社団法人 関西経済連合会 会長 メッセージ



松本 正義

公益社団法人 関西経済連合会 会長

「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」の開催を心よりお慶び申し上げます。

2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする「大阪・関西万博」の開催を控えるここ大阪において、オールジャパンでのがん撲滅に乗り出す本サミットが2年連続で開催されることを大変嬉しく思います。また、日々、がんの治療・研究に尽力されている皆さま、本サミットの開催にご尽力された関係の皆さまに心より感謝と敬意を表します。

国内には、がんに苦しむ患者、またそのご家族も多くいらっしゃいます。皆さまの願いは一つ、まさにがんの撲滅であり、がんに関する新たな手術や薬の研究への期待は大きなものがございます。加えて、希少がん・難治がんへの対策も急務です。

関西には、がんに関する先端的な研究を行うための基盤として、神戸医療産業都市、関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）など、世界最先端の研究機関・クラスターが立地しています。また、昨年7月には、関西の産学官により「バイオコミュニティ関西」が設立され、バイオ産業の発展に向けた連携体制が構築されました。そして、本年4月には「バイオコミュニティ関西」が、バイオ分野で世界をリードする「グローバルバイオコミュニティ」として内閣府に認定されました。今後、バイオを基軸とした研究や実装がさらに進むことが期待されます。

関経連では、2025年の「大阪・関西万博」をスプリングボードとし、健康・医療分野における産学官連携のプラットフォームである「関西健康・医療創生会議」等と連携し、データ利活用の推進や、医学・医療の発展に向けて積極的に貢献して参りたいと考えております。

本サミットのご盛会とご参加の皆さまの益々のご健勝とご多幸を衷心より祈念し、私からのメッセージとさせていただきます。

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA 顧問 メッセージ



清水 美溥

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』顧問
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長

第8回を迎える「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」の開催、誠におめでとうございます。

第1回目を横浜で開催してから、その後、東京ビッグサイトに移り、昨年からは大阪に会場を移して今回は8回目になります。

この会議は、医療だけではなく、政、官、財、がん患者の方々やご家族も含め、オールジャパンでがん撲滅に向けて取り組むことを目的として開催されています。その内容も年々充実しており、多くの方に賛同していただけるようになってきています。日本だけではなく、2020年には「日米がん撲滅サミット」、2021年には「世界がん撲滅サミット」に成長してきました。

これはひとえにこのサミットにかける中見先生の情熱と行動力のお陰で、本当に敬服すると同時に頭が下がる思いがします。

「がん」は本当に怖い病気です。日本人の二人に一人が「がん」にかかり、三人に一人が「がん」で亡くなっています。このような怖い「がん」に対し、これをいかに撲滅させようかという壮大な試みが、このがん撲滅サミットなのです。

本当にやりがいのある事だと思います。

この壮大な構想を実現させるには、医療関係者や製薬会社や役所だけではなく、一人でも多くの人の協力が必要であることは言うまでもありません。

医療に関係のない我々一般庶民も、がん撲滅のために何が協力できるのかを考え行動する必要がある、という思いにさせてくれるのが、この「がん撲滅サミット」なのだと思います。

お陰でがん治療の研究が進み、治療の選択肢が増え、がんは治る病気になってきましたが、まだまだです。がん治療の研究開発や治療法の改善をもっともっと早く進め、本当にがんは治る病気、また、予防できる病気に、一日も早く持っていきたいものです。

これからも、是非、がん撲滅という壮大な構想、悲願を達成するために、皆で力を合わせていきましょう。

大阪府医師協同組合 理事長メッセージ



小谷 泰

大阪府医師協同組合 理事長

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』の開催を心よりお慶び申し上げます。

また、昨年に引き続き大阪の土地で第8回目の開催となる本サミットが、このように盛大に開催されること、そして後援できますことを大阪府の医師が集う組合の長として、喜ばしく感じるところであります。

本サミットは、国民の2人に1人が罹患し、3人に1人が亡くなる病気となった「がん」が、日本ばかりか世界中の人々を脅威にさらしていることから、医療界、政官財、そしてがん患者やそのご家族が結束し、オールジャパンでがんを撲滅しようという呼びかけによる機運から起ち上がったと伺っております。

ご承知のとおり大阪府は、大阪・関西万博が2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される地であり、また、2018年度から2023年度までを期間とした「第3期大阪府がん対策推進計画」では、基本理念として、「がんを知り、がん予防を進めるとともに、がんになっても心身ともに適切な医療を受けられ、安心して暮らせる社会の構築」が掲げられており、「がんの予防・早期発見」、「がん医療の充実」、「患者支援の充実」そしてこれらの「がん対策を社会全体で進める環境づくり」を推進していくこととされております。ここ大阪は「がん撲滅への挑戦を誓う地」としてはこれ以上ない場所となっています。

また、地域に根差した私たち開業医は、府民に健康の不安があるとき、病気になったときなど、いつでも相談できる身近なお医者さんとして、日々診療を行っております。

大阪府医師協同組合は、「医師の、医師による、医師のための組合」として、がん患者に向き合う医師を後方から支援する、全国でもトップクラスの医師協同組合であります。言い換えれば、間接的にがん患者を支援する組織でもあるのです。

これからも安全で安心な医療提供がなされ、がんの撲滅が推進されるよう、患者と共に闘う医師の医業や暮らしのサポートに尽力してまいります。

結びに、本サミットの開催にあたり、準備・運営にご尽力いただきました関係者の皆様に対し、心から感謝と敬意を表しますとともに、本サミットの成功をご祈念申し上げメッセージとさせていただきます。

学校法人 慈恵大学 理事長 メッセージ



栗原 敏

学校法人 慈恵大学 理事長

『世界がん撲滅サミット2022 in OSAKA』の開催、おめでとうございます。医学・医療に関係している方々の総力を結集して、がんを撲滅するという強いメッセージを大阪から世界に送るこのサミットが、がんと闘っている患者さん、医療従事者、研究者を励まし強い絆を創るものと思います。

世界中が新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、感染症の予防と治療に注目が集まっています。その中で、がんに罹患した方は、がんと先行きが見えない感染症に大きな不安を感じていることと思います。抗生物質が開発され、一時期、感染症は制圧できたのではないかと考えられましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大は、我々に感染症の脅威を突き付けています。新型コロナウイルスはそのものの脅威に加えて、患者さんの受診行動に大きな影響を及ぼしていることも問題です。がん患者さんが定期的な受診を控え、そのため、がんが進行してしまい亡くなられた方がいることが報告されています。

がんの基礎研究は目覚ましい発展をとげ、治療の選択肢は増え、それに伴い、一部のがんを除いて生存率は著しく改善されています。がんに罹患したスポーツ選手などが治療を受けて寛解して、再び現役に復帰されている方もいて、がん患者さんを勇気づけています。一部のがんは治る疾病になり、早期に発見して、適切な治療を受けることが重要なことを示唆しています。しかし、がん患者さんは多くの人の支えがなければ治療を継続的に受けることが難しいことを認識する必要があります。患者さんと医療者の間の情報の共有と連帯が治療には欠かせないと思います。また、医師でもがんに罹患すると不安になり、様々な情報に振り回されることが報道されていましたが、確かな医療情報の共有が必須です。

がんの撲滅には先端的な研究の振興とともに、患者さんに寄り添い支援する仕組みが求められていることを実感しています。がん撲滅に取り組む多様な方々が、情報を共有して、連帯することによってがんを撲滅したいものです。その一環として、この世界がん撲滅サミット2022 in OSAKA が力強いメッセージを世界に発することを期待し、サミットの成功を祈念いたします。



近藤 昭彦

神戸大学 副学長

「世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA」の開催を心よりお慶び申し上げます。

また本サミットの開催にご尽力された関係者の皆様に深く敬意を表します。

今、日本人の2人に1人ががんに罹患し、現在でも国内の死因の第1位でありその上昇傾向には歯止めがかかっておらず、がんの診断・医療・予防などのがん対策推進は非常に重要な取り組みです。

私がこれまで取り組んできた応用微生物研究でもがんとの関連が数多く明らかになってきています。最近「腸内細菌」「マイクロバイオーーム」「腸活」という言葉をよく目にします。私たちの腸内には1000種以上、約100兆個、重さにして1.0～1.5kgの微生物が存在するといわれていますが、近年の技術進歩により微生物ゲノム情報を網羅的に収集することが可能となり、ヒトマイクロバイオーームの全体像が遺伝子・ゲノムレベルで解明されつつあり、ヒト腸内環境研究が大きく発展し、生活習慣病、炎症性腸疾患、神経疾患など様々な疾患との関連性が明らかになってきています。がんに対しても、マイクロバイオーーム研究が盛んに進められ、微生物のがんの発症や進展に関与する、あるいはその逆にがん治療効果を示すことが見出されつつあります。現在では、微生物によるがん治療の臨床試験が数多く進められていると同時に、マイクロバイオーームをがんの診断マーカー・予防マーカーとして活用することも積極的に研究されています。2020年日米がん撲滅サミットに始まった「ヒポクラテス・プロジェクト」においても微生物と腸管免疫に注目した研究活動を推進し、がん予防・治療につなげていく取り組みが進められています。

関西には、神戸医療産業都市、彩都ライフサイエンスパークなど多くの研究開発拠点があり、がん治療・診断の研究開発に取り組む大学・研究機関・スタートアップ・企業などが数多く集まっています。これらの地域で取り組まれている最先端の再生医療・細胞治療・イメージング技術・ロボット技術・デジタル/AI技術などの幅広い技術と遺伝子治療やマイクロバイオーーム創薬などを含めた最新のがん医療がより綿密にコラボレーションすることにより、本年サミットのテーマ「今、大阪から世界に広がる未来医療への挑戦!不可能の壁に風穴を開ける!」が推進され、がん克服から撲滅に向かってさらに前進することを期待しています。

最後になりますが、本サミットががん患者の皆様とご家族、医療関係者とその支援者、さらにはがん研究者の方々にとって実りあるものとなることを祈念し、メッセージといたします。

大阪大学 名誉教授 メッセージ



杉山 治夫

大阪大学大学院 医学系研究科癌免疫学寄附講座 教授
大阪大学 名誉教授

世界がん撲滅サミットは早くも第8回目を迎えるまでになり、大会長の原丈人会長、提唱者・ファウンダーの中見利男代表顧問の大変な御尽力に感謝申し上げます。

がんは、人類を最も恐怖に陥らせる病気であると思います。がんは、日本人男性の約65%、女性の約50%が罹患いたします非常に頻度の高い病気です。がんと診断されましたなら、だれしもが、死を意識するほどの極めて恐ろしい病気であると思います。医学の進歩により、近年、多くのがん治療法が開発されてきましたが、これらの最新がん治療法をもってしましても、すべてのがん患者さんを救うことがかなわず、今もって、がんは極めて恐ろしい病気であり続けております。この極めて恐ろしいがんを撲滅することは、人類の悲願であります。

がんの治療法は、長きにわたり、手術療法、抗がん剤療法、放射線療法が3大がん治療法として、がん治療のすべてを担ってきましたが、近年の免疫チェックポイント阻害剤の成功を発端にして、免疫療法が第4のがん治療法として確固たるものになりました。CAR(キメラ抗原受容体)-T細胞療法は、岸本忠三先生のアクテムラの使用により、安全に行えるようになり、急性リンパ性白血病で確立され、悪性リンパ腫でも標準療法化されてきました。多発性骨髄腫でもCAR-T細胞療法が開発されました。CAR-NK細胞療法も開発されています。最近、「T細胞エンゲージャー」と呼ばれます免疫療法の開発が注目されています。これは、T細胞を、腫瘍細胞に強制的に接着させ、腫瘍細胞を死滅させる方法です。例えば、T細胞上のCD3分子に結合する抗体と腫瘍細胞上のCD19分子に結合する抗体の2つの抗体を人工的に結合させた人工抗体は、T細胞を腫瘍細胞に接着させ、腫瘍細胞を殺傷いたします。また、我々は、WT1ペプチドがんワクチンを開発しておりますが、本がんワクチンは、国内外で治験が行われており、もし製薬化されましたなら、がん治療の1つのゲームチェンジャーになるものと思われれます。

幸運なことに、がんの治療薬は、他の病気に比し、きわめて多数あります。2022年2月現在、承認されましたがん分子標的治療薬(分子標的抗がん剤、抗体医薬、CAR-Tなど)は、145種類にまでなっております。また、いろいろな種類のがん治療薬と手術、放射線療法などを同時に、あるいは、経時的に組み合わせることが出来ますので、結果として、がんの治療法は、極めて多様性に富んでおります。そのため、どの治療手段を、いつ、どのように使うかが(戦争において、陸、海、空の各軍をどう使うかに似ています)、非常に重要で、また非常に難しいことであり、これが治療効果を決めると言っても過言ではないと思います。

本サミットでは、プロ中のプロから、がん治療の多くの選択肢が示され、がん患者さんの一人ひとりの最適の治療法は何かについての多くの示唆が得られるものと期待いたしております。



蒲島 郁夫

熊本県知事

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』の開催、誠におめでとうございます。

これまで、世界がん撲滅サミット実行委員の皆様には、平成 28 年熊本地震及び令和 2 年 7 月豪雨からの復旧・復興、更には新型コロナウイルス感染症の医療支援として、温かい御寄附をいただいておりますことに、県民を代表して心から感謝申し上げます。

熊本地震、令和 2 年 7 月豪雨からの創造的復興が着実に進展する中、本県は、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、県民生活や経済活動などにおいて、幅広い分野でこれまでに経験したことのないほどの影響を受けました。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、本県では、感染拡大防止と社会経済活動のベストバランスの追求に全力で取り組んできました。

本県は今、かつてない大逆境の中にありますが、「逆境の中にこそ夢がある。」という私の信念のもと、コロナ禍を克服し、必ずや 2 つの災害からの創造的復興を成し遂げ、熊本の更なる発展に全力を尽くして参ります。

さて、がんは生涯において約 2 人に 1 人の割合でかかる病気とされています。私自身も 6 年前に早期の胃がんが見つかり、内視鏡手術を受けた経験があります。がんは特別な病気ではないことを再認識するとともに、改めて早期発見の重要性を実感しました。

本県では、平成 30 年に「第 3 次熊本県がん対策推進計画」を策定し、①がんを知りがんを予防する、②適切な医療を受けられる体制を充実させる、③がんになっても自分らしく生きることのできる社会を実現する、の 3 つの目標に向かってがん対策の充実に取り組んでおります。本県では、がん検診の受診率向上に力を入れており、その割合は、全国平均より高く、特に国が指針で定める 5 つのがん検診のうち、男性の胃がん、肺がん、大腸がん、女性の肺がん、乳がんにおいては、既に国の目標値である 50%を上回っています。今後も、国及び県が指定する 21 の拠点病院と連携し、引き続き、県全体でがん医療水準の向上を図って参ります。

最後になりますが、本日のサミットが、お集まりのがん患者の皆様やその御家族をはじめ、医療関係者などその支援者の皆様にとって、実りあるものとなることを期待いたしまして、私からのメッセージとさせていただきます。

すい臓がんサバイバー メッセージ



高村 僚

すい臓がんサバイバー

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』開催おめでとうございます。
昨年、会場を東京から大阪に移し、コロナ下でありながら万全を尽くし
開催に漕ぎ着けられた中見利男様他スタッフ皆様のご尽力に心より感謝申
し上げます。

私は2010年2月に膵臓がん初回手術、その後2度の再発再手術を行いました。完治は叶わず、
2015年7月から以後7年間再発膵臓がんとの共存が続いています。初回手術から殆どの治療を東京
の大学病院で継続していますが、標準治療ではない免疫治療や丸山ワクチンなども実践しており、主
治医には代替医療実施先に紹介状・画像・組織を迅速に提供いただき治療を続けています。

数年前までは切除不能膵臓がんに対して長期生存可能な治療は外科手術のみでしたが、粒子線治療
が保険承認され、また数々の放射線治療装置が開発され大きな成果を上げています。

遺伝子変異や患者の薬に対する反応を考慮した個別化治療が進んできていることは大変有り難いこ
とです。しかし2019年6月に保険承認された「遺伝子パネル検査」が、日本では治療法が無くなっ
た患者あるいは無くなると思われる患者しか受けることが出来ないのです。何故この様なことになっ
ているのでしょうか？

また、自分の専門外の治療法については全く受け付けず、標準治療以外を行いたいという患者の申
し出に対し「そんな事を言うのなら治療は行えないので出て行け」と言う医師が少数ながらいるのは
本当に寂しい限りです。

がん撲滅サミットで今年のテーマは、「がん医療改革への挑戦！」です。

がんの5年生存率は60%を超えるようになり、がん＝死という構図はなくなりましたが、難治性
がんの代表膵臓がんは5年生存率10%程度です。難治性がん研究や抗がん剤副作用軽減研究への投
資、日本のがん医療を良い方向に導いていただけると確信しています。

そして、患者もマナーを大事にしながら患者自身が主治医に対し聞いてみて下さい。きっと新しい
世界が広がると思います。

これからもがん撲滅に向かい邁進される「がん撲滅サミット」に大いに期待しています。そして、
微力ながらサポートさせていただきます、命ある限り。

天国の^{さか た なつ の}坂田捺乃さんへ贈る 追悼文

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA
代表顧問 中見 利男



6年前の2016年10月22日。この日開催されたがん撲滅サミットのステージで1人の少女が生きることの尊さ、何かに向かってチャレンジしていくことの大事さ、そして小児がんと闘っている同世代の子供たちに向かってエールを送る予定でした。

当時、中学2年生だった坂田捺乃（さかた なつ）さんが、その人です。平成13年3月26日生まれの坂田捺乃さんは三沢市立三沢第一中学校時代に脳幹グリオーマという小児がんを発症しました。

小児がんと闘っている彼女のことを知ったのは、妻の友人の紹介でした。

リハビリ中の2015年7月、小児がん撲滅を願っていた彼女に、がん撲滅サミット2016への登壇をお願いすると、リハビリ中の彼女から、こんなメールが返ってきました。

「ありがとうございます。ほかの子供たちのお役に立てるのでしたら頑張ります。でも、先生、私、緊張したら笑ってしまうので、どうしようかと思えます」

読書が好きだった彼女は、その一方で皆さんもお名前を聞けばご存じの国民的なアーティストの大ファンでした。手術の前や放射線治療中、そして病室でイヤホンを通じて、彼らの音楽に耳を傾け、がんと闘う勇気と前向きに生きていくパワーをもらっていたそうです。

2015年9月に病気が再発し、その後、自宅治療で頑張っていたなっちゃんにもクリスマスが近づいてきました。ある日、ご両親が「なっちゃん、クリスマスプレゼント何が欲しい」と尋ねると、彼女は

「私のものはいいから、大好きなアーティストに小児がんで苦しんでいる子供たちや家族が元気になる歌を作って欲しい」

ご両親は困惑して顔を見合わせました。彼女の夢があまりにも壮大で、お店で買えるようなリクエストではなかったからです。

「それ以外に、なっちゃんが欲しいものはないの？」と聞いても、

「ない。あの人たちに私と同じように苦しんでいる子供たちや支えてくれている家族が元気になる歌を作って欲しいの」

この言葉を聞いたご両親は行動を起こそうと決意したのです。多くの人たちに坂田捺乃さんの願いを伝え、少しでも彼女の夢を応援してほしいと奔走したのです。

お金では買えないプレゼント。しかも、同世代の小児がんで苦しんでいる子供たちを励ましてほしいという崇高で清らかな願い。彼女の願いだけでも、そのアーティストに届けようと皆が八方手を尽くしました。

追悼文

そして2016年1月のある日。父親の篤史さんの携帯に1本の電話がかかってきました。

「突然のお電話で失礼します。坂田捺乃さんのお父さんですか？」

その声は、あのアーティストご本人だったのです。しかし坂田捺乃さんの意識は混濁し、眠ったままの状態です。それでも篤史さんは捺乃さんの耳元に携帯電話を当ててあげました。かすかにアーティストの声が漏れてきます。

「なっちゃん！ なっちゃん！ 早く元気になってね。応援しているからね。東京の病院に入院することがあったら、必ずお見舞いに行くから頑張っってね。応援の歌はすぐにできなくても、僕らの歌の中から応援の歌になると思うものをみんなを選んで送るからね」

その後、坂田捺乃さんと小児がんで闘う子供たちのために、そのアーティストとメンバーが皆で選んだ曲が送られてきました。坂田捺乃さんの夢が奇跡を起こしたのです。

我々は心から感動を覚えました。自分だけではなく同世代の小児がんで闘う人たちを励ましてあげて欲しい。そんな純粋な思いが人を動かすのだと。

しかし、その1ヶ月後の2016年2月6日、闘病の末、彼女はわずか14歳で天上の星になりました。

彼女から私に送られてきた最後のメールには

『中見先生、私はしっかり勉強して女医さんになりたいと思います。女医さんになって小児がんの子どもたちをみんな治してあげたいんです』

と強い決意が綴られていました。

星になった彼女の名前は、『光明院天心桜華清童女』。天女のように清らかな心で、地上で闘い続けるがん患者の皆さんを応援する少女という意味です。

私は思います。彼女の崇高な願いは小児がんを抱えて闘う子供たちだけでなく、我々に向けて託された夢だったのではないかと。

本日、闘病中だった彼女が、2015年6月9日に開催された第1回がん撲滅サミットに寄せてくれた手紙をご紹介します。

『がん撲滅サミットに参加された皆様にお手紙を差し上げるご無礼、どうかお許し下さい。また、リハビリ中のため手が思うように使えず、乱筆にて失礼いたします。

病気だと分かった日。私は怖くて怖くて涙が止まりませんでした。なぜ自分が、こんな病気になってしまったのだろうと悔しかったです。

今、退院してから検査がすごく怖いのです。病院で何度もとったMRIも大きな音がして、狭くてすごく怖いです。また病気が大きくなって、せっかく頑張った入院生活をまたやり直すことになったら、前と同じように治療はうまくいくのか。たくさん不安があります。

私は、脳幹部に腫瘍があります。先生からは手術では手が出せない所だと説明を受けました。だから腫瘍は小さくすることしかできません。一生この病気と離れられないのかもしれないかもしれません。すごく悔しいです。

でも、私の主治医の先生は、こう言ってくれました。

「泣いてもいいけど、泣いたら小さくなってくれるような弱い病気じゃない。だから一緒に闘おう」

私はこの言葉のおかげで、不安で泣いてしまうことがあっても、すぐに前向きになる事ができます。その先生の下には私と同じような病気の子供がたくさんいました。中には二回、三回と入院している子もいて驚きました。でも、みんな元気で明るく頑張っている姿を見て、私も前向きになれました。

私の母はずっと入院中、そばにいてくれました。いつも明るく私を笑わせてくれて元気をもらっていました。

でも中には、私より小さい子供が一人で寝泊まりしていました。私はお金のことで家族のサポートのことで、よい環境で治療を受けることができた、今、思っています。

しかし、すべての子供たちがそうではありません。気持ちを強くもって治療に臨むことが、私は大事だと思います。本人や家族が治療に集中できる環境作りが大切だと思います。

治療を受ける私たちにとって、周りのサポートはすごく重要です。大切な人がそばにいてくれれば、きっと前向きな気持ちになれると思います。

私と同じような病気の子供たちの、がまんや不安な気持ちを少しでも減らしてほしいです。

私が病気になってから、中見先生や東京の病院の先生に助けられて、病気と闘うことができます。手術後に不安になったり、傷口が痛んだり、ワガママを言いたくなることもきっとあると思います。

そんな時、だれかがそばにいるって、きっと力になるし、大事なことだと思います。

私は今まで、ニュースなどを何気なく見ていました。難病で海外に行くための募金を集めたりしているのを目にしました。早く治療をして、病気を治したいのにお金のことで困ってしまうのは、すごく大変だと思います。

私は自分の治療費のことなどを知りません。少し不安になったこともあったけど、父が「何も気にしないでいいんだからな」と言ってくれて、安心しました。また、弟が青森にいますが、父と祖父母が面どうを見て、母はずっと私につきそってくれました。

しかし、小児難病と闘っている子供たちが日本には、まだたくさんいると思います。

私の小さな力で何かできることはないかと思い、今、こうして手紙を書きました。

私の願いが届きますように。

坂田 捺乃』

以下はご両親からいただいた『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』へのメッセージです。

『娘の闘病生活が終わり6年10ヶ月余り。様々な感情と共に移り行く日々を、娘をいつも傍に感じつつ過しています。

代表顧問、中見先生のお力添えにより、素晴らしい医師団に出会い、病気と向き合うための心のケアから始まり、主治医と共に強い気持ちで治療に臨みました。

娘も私たちも最後まで諦めず、その後も様々な医師と治療の可能性を探り、納得した治療を受けた結果として、寂しさを抱えながらも、前向きに生きようとする今があると感じています。

本日、がん撲滅サミットに参加されている患者、ご家族様のお悩みやご心配事もまた、様々なでしょう。皆様が治療に向けたヒントを得られ、共に闘って頂ける医師に巡り合われる事を願ってやみません。

娘は最後まで病気と向き合い、また、同じ境遇の子供達に心を痛めておりました。

今回のサミットが、そのようなお子様方やそのご家族にとっても、ひとつの希望となりますことを心よりお祈りいたしております。』

おかげ様で坂田捺乃さんの願っていたウイルス療法 G47 Δが、がん撲滅サミットの働きかけにより条件付承認となり、脳幹グリオーマの患者の皆様に適用されることになりました。

我々、がん撲滅サミットは星になった彼女の夢をさらに叶えるため、小児がん撲滅に挑戦していくことをここに誓います。

講演者プロフィール



はら じょうじ
原 丈人 先生

「公益資本主義が医療を変革する！」

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』大会長
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 会長
(国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関)

[略歴]

大阪府生まれ。27歳まで中米考古学研究の後、渡米し在学中に起業。
1984年 デフタ パートナーズを創業、米・英・イスラエルで情報通信、半導体、
ライフサイエンス分野のスタートアップベンチャーに出資、経営参画し、世界的企業
へと成長させた。

近年は、「天寿を全うする直前まで健康であることを実現することができる世界最
初の国を創る」という理念を実現するために、DEFTA Healthcare Technologies, L.P. (事
業開発会社)を設立し「技術イノベーション」「制度イノベーション」「エコシステム」
の構築に取り組み、米欧日で革新的技術の事業化に取り組んでいる。

一貫して株主資本主義に警鐘を鳴らし、公益資本主義の実現を提唱し、香港中文大
学経営学大学院招聘教授、大阪大学医学部大学院招聘教授として若者に理念を説く。

国連政府間機関特命全権大使、ザンビア大統領顧問、米共和党ビジネスアドバイザー
リーボード名誉共同議長、日本の財務省参与、国連経済社会理事会の特別協議資格を
有するアライアンス・フォーラム米合衆国公益財団会長など国内外で公職を歴任。

[著書] 『増補 21世紀の国富論』(平凡社)、『公益資本主義』(文春新書)がある。



もぎ ただし
茂木 正 先生

「経済産業省が取り組む未来のヘルスケア」

経済産業省 商務・サービス 審議官 兼 商務・サービスグループ長

[略歴]

平成4年3月 北海道大学大学院 工学研究科 卒業
平成4年4月 通産省入省
平成21年9月 資源エネルギー庁 資源・燃料部 政策課 燃料政策 企画室長
平成23年7月 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 省エネルギー 対策課長
平成25年6月 製造産業局 化学課長
平成28年6月 製造産業局 素材産業課長
平成29年7月 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 政策課長
平成30年7月 中小企業庁 長官官房 総務課長
令和元年7月 大臣官房 参事官(技術・高度人材戦略担当)(併) 危機管理・災害対策 室長
令和2年7月 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー 部長
令和4年7月より現職



マーク・J・ラテイン 先生 「米国が描くがん撲滅戦略 2022」

医学博士
シカゴ大学プレジジョン医療研究センター センター長・教授

[略歴]

進行性固形腫瘍を治療するための治験薬の使用、及び販売用医薬品の臨床薬理学の専門家。腫瘍治療用の新薬の臨床開発に長年関心を持っており、最近ではゲノム薬理学を利用して患者一人ひとりの個別処方を行うこと、すなわち、より少ない投薬量、より少ない投薬頻度、より短い治療期間、そして代替治療薬の使用を通じて処方費用を節減することを目的とした介入薬理経済学の研究に焦点を当てている。

第 I 相臨床試験、薬理遺伝学および臨床試験方法論の国際的リーダーであり、最近、介入薬理経済学の新しい分野を開拓。500を超える記事と書籍を執筆し、現在、総合がんセンターの臨床科学担当副所長、シカゴ大学プレジジョン医療研究センターセンター長、シカゴ大学医学部の主任病院薬理学者を務める。

2015年 アメリカ研究製薬財団から「臨床薬理学優秀賞」を受賞。

2016年 がん治療のジャイアンツ認定プログラムの腫瘍学部門(科学の進歩)にノミネート

2019年 トーマス・ジェファソン大学で「グルーバー賞受賞」記念講演を行う。



和泉 洋人 先生 「がん撲滅 命輝く未来のデザイン—大阪・関西万博の挑戦—」

東京大学 特任教授
大阪府・大阪市特別顧問
前内閣総理大臣 補佐官

[略歴]

昭和51年 4月 建設省 入省

平成13年 1月 国土交通省 住宅局住宅総合整備 課長

平成16年 7月 国土交通省 大臣官房審議官(住宅局担当)

平成19年 7月 国土交通省 住宅局長

平成24年10月 内閣官房 参与(国家戦略担当)

平成25年 1月 内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに地域活性化担当)(第2次安倍内閣)

平成29年11月 内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当)(第4次安倍内閣)

平成30年10月 内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当)(第4次安倍改造内閣)

令和元年 9月 内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当)(第4次安倍第2次改造内閣)

令和2年 9月 内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)(菅内閣)

令和3年10月 一般財団法人日本建築センター 顧問

令和4年 1月 大阪府・大阪市 特別顧問

講演者プロフィール



ふくしま やすまさ
福島 靖正 先生

「がん対策加速化に向けて 2022」

厚生労働省 医務技監

【略歴】

- 1959年 熊本県生まれ
- 1984年 熊本大学 医学部 卒業
- 2007年 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健 課長
- 2009年 健康局 結核感染症 課長
- 2012年 大臣官房 厚生科学 課長
- 2013年 農林水産省 大臣官房審議官
- 2014年 厚生労働省 大臣官房審議官 (医政担当)
- 2015年 健康 局長
- 2017年 成田空港 検疫 所長
- 2018年 国立保健医療科学 院長
- 2020年 8月より現職



でざわ まり
出澤 真理 先生

「がん治療における臓器傷害からの復活：
Muse 細胞がリードする健康長寿社会の実現」

医学博士
東北大学大学院 医学系研究科 細胞組織学分野 教授
(Muse 細胞の発見者)

【略歴】

- 1989年3月 千葉大学医学部 卒業、千葉大学医学部 附属病院研修医 (第三内科入局)
- 1991年4月 千葉大学大学院 医学研究科 博士課程入学
- 1995年3月 千葉大学大学院 医学研究科 博士課程修了
- 1995年4月 千葉大学医学部 解剖学第二講座 助手
- 1997年4月 千葉大学医学部 眼科学講座 助手
- 2000年4月 横浜市立大学医学部 解剖学第一講座 講師
- 2003年1月 京都大学大学院 医学研究科 機能微細形態学 助教授
- 2008年4月 東北大学大学院 医学系研究科 細胞組織学分野 教授
現在に至る

【受賞歴】

- 1997年 井上研究奨励賞 (財)井上科学振興財団
- 1999年 日本解剖学会奨励賞 (社)日本解剖学会
- 2003年 日本顕微鏡学会奨励賞 (社)日本顕微鏡学会
- 2011年 文部科学大臣賞 文部科学省
- 2015年 Everfront Award the 8th Pan Pacific Symposium on Stem Cells and Cancer Research (PPSSC)
- 2018年 米国 National Academy of Inventors (NAI) Fellow受賞

Muse 細胞の発見者として世界から注目を集めており、将来、医療界にルネッサンスをもたらす旗手として活躍が大いに期待されている。



なかむら ゆうすけ
中村 祐輔 先生

「がん患者に夢と希望を！」

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタル ディレクター
東京大学 名誉教授、シカゴ大学 名誉教授

[略歴]

- 1977年 大阪大学医学部 卒業
- // 大阪大学医学部 附属病院 (第2外科) 勤務
- 1984年 医学博士 (大阪大学)
- 1987年 ユタ大学 人類遺伝学教室 助教授
- 1989年 財団法人 癌研究会癌研究所 生化学 部長
- 1994年 東京大学医科学研究所 分子病態研究施設 教授
- 1995年 東京大学医科学研究所附属 ヒトゲノム解析センター長・教授 (～2011年1月)
- 2001年 オンコセラピー・サイエンス 創設
- 2005年 理化学研究所 ゲノム医科学研究センター長 併任 (～2010年3月)
- 2010年 独立行政法人 国立がん研究センター研究所 所長併任 (～2010年12月)
- 2011年 内閣官房医療イノベーション 室長
(我が国の医療イノベーションを推進するための戦略作成)
- 2012年 シカゴ大学医学部血液・腫瘍内科教授・個別化医療センター 副センター長
- 2017年 人工知能を医療に応用するフロンテオヘルスケア社の設立に尽力
- 2018年 公益財団法人 がん研究所がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授
- 2020年9月 『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』 受賞
- 2022年4月 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長

原著英文論文は Nature 17 編、Nature Genetics 70 編、New England Journal of Medicine 7 編、Science 11 編、Cancer Research 115 編など 1,400 編以上、その引用件数は約 16 万回。h-index の世界 ランキングで 77 位 (2018 年 3 月 9 日現在)

講演者プロフィール



ジャン=イヴ・ブレイ 先生 「がん撲滅に向けた がん治療最前線 2022」

フランス・レオンベラルセンター 教授
2019 欧州臨床腫瘍学会 会長

[略歴]

ジャン=イヴ・ブレイ教授 (MD) は、腫瘍内科医であり、フランス・リヨンの総合がんセンターであるレオンベラルセンター (Centre Leon Berard) セネラルディレクター、研究者、フランス・クロード・ベラル大学 教授。

- 2012年 ESMO (欧州臨床腫瘍学会) Hamilton-Fairly 賞 受賞
- 2013年 米国医学アカデミー Henry and Mary-Jane Mitjaville 賞 受賞
- 2019年 ESMO 大会長 (参加者数 30,000人)
- 2018年～ LYRICAN SIRIC (旧 LYRIC) ディレクター
フランスサルコーマグループ 会長
- 2019年～ INCA の肉腫センターのネットワークである NETSARC+ のディレクター、
全世界の肉腫研究グループのシンクタンクである World Sarcoma Network (WSN) 秘書
- 2016年 EU委員会アドバイザー、EU内の希少がん患者のケアの質を向上させる。
- 2019年～ フランスがんセンター連合 会長
肉腫、ゲノミクスとがんの標的治療、免疫腫瘍学、腫瘍の免疫学的微小環境と悪性細胞の関係を中心に研究。診断、予後、治療の分野での臨床応用を目指している。

ブレイ教授は、1,000以上の査読付き記事や本を共同執筆しており、2019年には Highly Cited Researcher として表彰されている。また、国内外のさまざまな医療・研究機関にアドバイスしており、ESMO、CTOS、ASCO、AACR など、複数の腫瘍学の科学組織や学会のメンバーとして活躍している世界のがん医療の重鎮。



あおき とよひこ 青木 豊彦 先生 「下町ロケット、医療の空へ舞いあがれ！」

株式会社アオキ (ボーイング社認定工場) 取締役会長

[略歴]

- 1945年 大阪府生まれ / 高校卒業後 父経営 青木鉄工所 入社
- 1995年 株式会社アオキに社名変更、二代目社長就任 (2013年会長就任)
- 1997年 米ボーイング社 認定工場となる
- 2002年 東大阪宇宙開発協同組合 設立、理事長就任 (2005年退任)
- 2008年 有限責任事業組合航空宇宙開発まいど (LLPまいど) 設立、会長就任
- 2009年 種子島宇宙センターで国産ロケットH-IIAで人工衛星「まいど1号」打上 成功
- 2012年 無人機 (VTOL) シンガポールエアショー 出展
- 2013年 一般財団法人ものづくり医療コンソーシアム 設立 理事就任
- 2014年 国立和歌山大学 客員教授 拝命 / 公立大阪市立大学 客員教授 拝命
- 2016年 公立大阪市立大学 学長特別顧問 拝命

【著書】 涙と笑いの奮闘記「まいど！」近代セールス社、2009年

【受賞歴】 ベストファーザー in 関西・ものづくり部門 受賞、2008年
電気学術振興賞・進歩賞 受賞、電気学会、2010年

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA 公開セカンドオピニオン[®]

不可能の壁に風穴を開けろ！

～皆様のご質問にお答えするのは
がん医療最前線に立つ 12 人の登壇者～

〈順不同〉



ナビゲーター

なかみ としお
中見 利男氏

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA 代表顧問、提唱者／作家・ジャーナリスト
(ニュートンの秘密文書を世界に先駆けて解説するなど海外での評価が高い)

■皆様へのメッセージ

本日、日本が世界に誇る医師の方々と皆様のコラボレーションで大阪国際会議場を巨大なセカンドオピニオンエリアに変えましょう。患者の皆さんに寄り添うがん医療の確立を目指すためにも、皆様方のご質問を心よりお待ちしております。



こいずみ まさひこ
小泉 雅彦先生

大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 生体物理工学講座 放射線腫瘍学研究室
(兼) 大阪大学医学部附属病院 放射線治療科 教授
(カプセル型小線源治療・サイバーナイフ・IMRT 等)

[略歴]

1991年 大阪大学医学部卒業 大阪大学医学部附属病院
1992年 大阪府立成人病センター
1993年 関西労災病院 放射線科
1998年 大阪府立成人病センター 放射線治療科
2004年 京都府立医科大学大学院 放射線診断治療学講座 講師
2006年 藤田保健衛生大学衛生学部 診療放射線技術学科 教授
2008年 大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター 特任教授
2012年 大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 医用物理工学講座 教授
2020年 現職

資格：日本医学放射線学会 放射線科専門医（治療専門医）代議員、本がん治療認定医機構 がん治療認定医、医学物理士認定機構 医学物理士、放射線治療品質管理士、第1種放射線取扱主任者
その他：2017～2022年 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン 大阪大学拠点「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」事業推進責任者



なかやま たかひろ
中山 貴寛 先生

大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 主任部長
(乳がん)

【略歴】

- 1990年 奈良県立医科大学 卒業
大阪大学医学部第二外科(現消化器外科)に入局、一般外科 研修
- 1994年 大阪大学大学院において、1998年から2年間、米国 John Wayne Cancer Institute にて
癌の発生・進展に関する研究に従事
- 2005年 米国 MD Anderson Cancer Center に留学、乳癌のチーム医療を学ぶ
- 2008年4月 大阪大学大学院 医学系研究科 乳腺内分泌外科 勤務 (2012年3月まで)
- 2012年4月 大阪府立成人病センター(現大阪国際がんセンター) 乳腺・内分泌外科 副部長
- 2016年 同主任部長

2020年4月より乳腺センターを新設し、乳腺センター長として乳癌診療におけるチーム医療の推進、新しい薬剤や治療法の開発を目的とした治験や臨床試験の実施、さらに乳癌治療の個別化にむけた基礎研究など、多岐にわたる活動を行っている。

【出演番組】

読売テレビ/「おはよう！ドクター」「情報ライブ ミヤネ屋」「かんさい情報ネットten」「朝生ワイド
す・またん！」「news every」などに出演
毎日放送/ちゃやまちキャンサーフォーラム



ふじわら としよし
藤原 俊義 先生

岡山大学大学院 歯歯薬学総合研究科 消化器外科学 教授
(食道がん及びすい臓がん・テロメライシン ウイルス療法)

【略歴】

- 1985年 岡山大学医学部 卒業
- 1990年 岡山済生会総合病院などで研修、同大学院を修了、医学博士 取得
- 1991年 3年間、米国テキサス大学MDアンダーソン癌センターに 留学、アデノウイルスベク
ターを用いたがんの遺伝子治療開発に従事、帰国後岡山大学病院で臨床と研究に携
わる
- 2010年 岡山大学大学院 消化器外科学 教授
- 2011～2019年 岡山大学病院 副病院長、消化器外科領域での腫瘍融解ウイルスの創薬研究や
低侵襲な分子イメージング開発が専門
日本癌治療学会 理事

【著書】

「入門 腫瘍内科学(改訂第3版)」南江堂、2020
「遺伝子治療 MOOK 30」メディカルドゥ、2016
「次世代のがん治療薬・診断のための研究開発」技術情報協会、東京、2016

【出演番組】

「がん医療最前線」(BS-TBS) (2017年2月3日放送)
「おはよう日本」(NHK) (2014年1月11日放送)
「サイエンス ZERO」(NHK) (2008年10月19日放送)
「たけしの本当は怖い家庭の医学」(テレビ朝日) (2007年1月9日放送)
「クローズアップ現代」(NHK) (2002年12月12日放送) ほか多数



さ の けい じ
佐野 圭二先生

帝京大学医学部 外科学講座 教授
(肝臓がん、胆管がん、すい臓がん)

[略歴]

1990年 東京大学医学部 卒業
2004年 東京大学医学部 肝胆膵・移植外科 講師
2009年 日本赤十字社医療センター 外科部長
2010年4月～ 帝京大学医学部 外科学講座 教授

【専門】 肝胆膵の悪性疾患に対する集学的治療(特に高度進行症例)



おおはた けん
大園 研先生

NTT 東日本関東病院 消化管内科・内視鏡部 部長
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医、日本内科学会 認定医
日本消化管学会胃腸科 専門医、日本消化器内視鏡学会 関東支部 評議委員
(大腸がん、内視鏡手術の世界的権威)

[略歴]

1974年 茨城県生まれ
1998年 日本大学医学部 卒業、JR東京総合病院 内科研修医
2000年 JR東京総合病院 消化器内科 入局
2007年 NTT東日本関東病院 消化器内科医 入局
2013年 NTT東日本関東病院 内視鏡部 部長
2014年 大連医科大学付属 大連市中心病院 消化内鏡二科 特聘教授(中国)
Qilu Hospital of Shandong University 客員教授(中国)
2016年 東京女子医科大学付属 成人医学センター 消化器科 非常勤講師
蘇州相城区人民病院 消化器内科 客員教授(中国)
北京大学附属 人民病院 消化器内科 客員教授(中国)
2017年 東京医科大学 消化器内視鏡学分野 兼任助教
2018年 南昌大学 第一附属医院 消化器内科 客員教授
2019年 NTT東日本関東病院 消化管内科 部長
士別市地域医療アドバイザー、日本先端医療技術交流協会 理事

趣味は『内視鏡』。現在、日本におけるがん罹患数1位、2位を占める胃がんと大腸がん。開腹手術に代わる、おなかを切らない治療“内視鏡治療：ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)”の第一人者。

『突き詰めるほど内視鏡には終わりが見えない』、『我流も極めればいつか本流に』と縦社会の医療業界の中で、従来の医局制度に入らず腕一本の独学・我流で自らの道を切り拓いた。

【出演番組】 2016年「情熱大陸」「サンデープラス」、2018年「スッキリ」、2020年「名医の極み」、他多数。密着取材にも協力し力を注いでいる。

【著書】 多数



やまうえ ひろき
山上 裕機 先生

和歌山県立医科大学 探索的がん免疫学講座 教授、紀和病院 院長
和歌山県立医科大学 名誉教授・特別顧問
(すい臓がん)

【略歴】

1981年3月 和歌山県立医科大学 卒業
1992年9月 アメリカNIHの国立がん研究所 (NCI) にて Visiting Associate
2001年6月 和歌山県立医科大学 外科学第2講座 教授
2014年4月 和歌山県立医科大学 医学部長
2017年4月 和歌山県立医科大学 附属病院 病院長 (2021年3月まで)
2019年9月 和歌山県立医科大学 附属病院 膵がん センター長
2022年4月 紀和病院 院長
和歌山県立医科大学 探索的がん免疫学講座 教授

【主な学会活動】

日本消化器外科学会：第75回総会会長 (2020年12月開催)、理事 (2020年まで)
日本肝胆膵外科学会：監事、理事
日本膵臓学会：理事、評議員、指導医
日本癌学会：評議員
日本癌治療学会：代議員
日本バイオセラピー学会：理事 (元 理事長)
日本がん免疫学会：理事、第25回総会会長 (2021年7月開催)
上記を含め 計44学会・研究会の役員として活動



ひろの せいこ
廣野 誠子 先生

兵庫医科大学 消化器外科学講座 肝胆膵外科 主任教授
(すい臓がん)

【略歴】

2000年3月 和歌山県立医科大学 卒業、4月 研修医
2008年3月 和歌山県立医科大学 大学院 医研究科 (外科学(2)) 卒業、4月 学内助教
2014年8月 和歌山県立医科大学 講師
2016年4月 Johns Hopkins University visiting clinician
2016年8月 Heidelberg University visiting clinician
2022年1月 兵庫医科大学 消化器外科学講座 肝胆膵外科 主任教授

【主な受賞歴】

2007年：膵臓病研究財団 研究奨励賞
2010年：藤田記念財団 研究奨励賞
2020年：日本癌治療学会 最優秀演題賞、日本消化器病学会 女性研究者賞
2021年：武田科学振興財団 ビジヨナリーリサーチ助成 ほか多数

【主な学会活動】

日本外科学会：指導医、専門医、認定医／日本消化器外科学会：指導医、専門医、評議員／日本肝胆膵外科学会：高度技能専門医、評議員／日本膵臓学会：指導医、評議員／日本消化器病学会：専門医
ほか多数



うえぞの やすひと
上園 保仁 先生

東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座 特任教授
国立がん研究センター東病院 支持・緩和研究開発支援室 特任研究員
国立がん研究センター 先端医療開発センター 支持療法プロジェクト プロジェクトリーダー
(総合医療、漢方)

[略歴]

1985年3月 産業医科大学 卒業、医師免許 取得
1989年3月 産業医科大学大学院 修了、医学博士 取得
1991年1月 米国カリフォルニア工科大学 生物学部門 ポストドクトラルフェロー
2009年1月 国立がんセンター研究所 がん患者病態生理研究部 部長
2015年～2020年 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長
2020年～ 東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座 特任教授
国立がん研究センター 東病院 支持・緩和研究開発支援室 特任研究員 (併任)
国立がん研究センター 先端医療開発センター 支持療法プロジェクト プロジェクト
リーダー (併任)
長崎大学 客員教授 (併任)
順天堂大学大学院 疼痛制御学講座 客員教授 (併任)
(現在に至る)

[著書] 「長生きするがん治療」ワニブックス、2015



かま だ ただし
鎌田 正 先生

神奈川県立がんセンター 重粒子線治療 センター長
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 元病院長
千葉大学大学院医学研究院・群馬大学医学部医学科、客員教授 併任
新潟大学大学院医歯学総合研究科・北海道大学医学部医学科、客員教授 併任
(重粒子線治療)

[略歴]

1973年4月 北海道大学 医学部医学進学過程 入学
1979年3月 北海道大学 医学部医学科 卒業
1979年7月 北海道大学 医学部附属病院 放射線科 医員
1994年10月 科学技術庁 放射線医学総合研究所 重粒子治療センター治療診断部治療課 医長
2001年7月 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター診断課臨床検査 室長
2008年6月 放射線医学総合研究所 重粒子医科学 センター長
2016年4月 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
同 放射線医学総合研究所 臨床研究 クラスター長
同 放射線医学総合研究所病院 病院長 併任
2019年4月 神奈川県立がんセンター 重粒子線 センター長

[出演番組]

「鳥越俊太郎 医療の現場」(BS 朝日)
「現場に訊く！ここまで来た！がん治療」
「NHK ジャーナル」(ラジオ第1・平日 PM10:00～11:10 全国放送)
スタジオ生出演でのインタビュー



きよまつ ともみち
清松 知充先生

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 大腸肛門外科 診療科長・下部消化管外科
医長
(骨盤内腫瘍と大腸がん腹膜播種)

【略歴】

1998年 東京大学医学部 卒業
1999年 癌研究会附属病院 外科
2000年 NTT東日本関東病院 外科
2003年 東京大学大学院 医学系研究科 外科学
2007年 日立製作所 日立総合病院 外科
2011年 東京大学医学部 腫瘍外科 助教
2016年 東京大学医学部 腫瘍外科 特任講師、腫瘍外科・血管外科 医局長
2017年 国立国際医療研究センター病院 外科
(2018年より大腸肛門外科 診療科長)

【専門分野】

大腸癌・直腸癌の外科治療／直腸癌手術における機能温存手術(肛門、排尿機能、性功能)／ロボット(ダヴィンチ)手術および腹腔鏡手術による低侵襲治療／腹膜偽粘液腫の外科治療／特殊な粘液産生腫瘍の腹膜播種である腹膜偽粘液腫の外科治療【完全減量手術(腹膜切除)と術中腹腔内温熱化学療法】／虫垂粘液瘤(未破裂で腹膜偽粘液腫の前段階の虫垂)の手術

【主な資格】

日本外科学会：専門医・指導医／日本消化器外科学会：専門医・指導医／消化器がん外科治療認定医／
日本がん治療認定医機構：がん治療認定医／大腸肛門病学会：専門医／日本内視鏡外科学会：技術認定医／
日本ロボット外科学会：専門医・Robo Doc Pilot 認定(消化器外科)



たかぎ あきみつ
高木 陽光先生

ヒポクラテス・プロジェクト協力メンバー
株式会社ヤクルト本社中央研究所 微生物研究所 上席研究員
微生物研究所・上席研究員
(がん予防〔プロバイオティクス〕)

【略歴】

1991年 茨城大学大学院・農学研究科修了(農芸化学)・株式会社ヤクルト本社入社
ヤクルト中央研究所にて、医薬品研究所室長、食品研究所室長、微生物研究所室長
を経て現職。
2007年 三重大学大学院・医学系研究科・博士課程修了(博士(医学))

プロバイオティクスの癌予防研究(非臨床、乳癌ほか)／抗癌剤オキサリプラチンの薬理研究と承認申請・適応拡大／前立腺癌の発癌過程の研究(エピジェネティクス、3次元培養(2007年・前立腺がんワークショップ医学賞受賞))／抗癌剤(分子標的薬、ドラッグデリバリー剤など)の薬理研究および早期臨床試験への橋渡し研究などをアカデミアとの共同研究とともに歴任。

現在、乳癌患者の臨床研究やものづくり研究を展開。



たかむら りょう
高村 僚氏

すい臓がんサバイバー

【略歴】

- 1953年11月 生まれ
- 1977年 3月 武蔵工業大学(現：東京都市大学)工学部電気工学科 卒業
- 1978年 4月 電力設計会社 入社
主に送電線設計に関するシステム開発に従事
- 2018年 膵臓がん治療専念のため退社

【手術歴】

- 2010年 2月 膵体尾部及び脾臓 切除
- 2012年 5月 左横隔膜下腹膜播種 切除
- 2015年 11月 腹膜播種 二カ所切除

世界がん撲滅大阪宣言 2022

1961年5月、アメリカのJ. F. ケネディ大統領が「ニューフロンティアを目指そう」とアポロ計画を提唱した結果、人類は月面に着陸することができた。

そして21世紀の現在も米国、ロシア、中国などの大国及び民間有志は次々と月や火星を目指し、日夜しのぎを削っており、そのニューフロンティアは依然として宇宙にあると言っても過言ではない。

ケネディ大統領というたった一人の人間が約60年前に行動を起こそうと呼びかけたことで宇宙はニューフロンティアに変わり、そこから人類が受けた科学的技術的恩恵は計り知れないものがある。

しかし我々人類は未だに地球上にはもう一つのニューフロンティアが存在していることを忘れてはいないだろうか。

それこそが、『がん撲滅』という前人未到の大地である。

人類とがんの死闘は約4千年前から続いているが、悲しいかな人類はがんを撲滅するどころか、圧倒されつつある状況である。しかし2015年6月、我々は有志数人で立ち上がり、今や世界に向けてがん撲滅の理念と人類の連携を図るところまで成長した。

そして2019年10月にはアライアンス・フォーラムと日本政府が主催する『2019 World Alliance Forum in San Francisco』において米国の重鎮たちに改めてがん撲滅の重要性と日米が連携して人類をがんから解放しようという呼びかけを行い、同時に日米有志の働きかけによって2022年9月12日、ついに米国バイデン大統領による『2047がん撲滅宣言』を引き出すことに成功したのである。

振り返れば2013年9月、身内にがん患者を抱えた一人の作家・ジャーナリストの「オールジャパンでがんを撲滅しよう」という呼びかけから始まり、9年後、米国大統領がついに同様の宣言を行うまでに至ったのである。これこそ情熱と執念の賜物であり、たった1人からでも歴史は変わることを証明してみせた貴重な一例なのだ。

そう、見渡せばケネディはどこにでも現れるものである。しかし、それでも、なおがん撲滅に反対する勢力がいることは悲しいかな現実だ。彼らは標準治療のみを推進し、患者の望む治療の多様性を認めないことから標準治療ファシズムと呼ばれ、患者に対してさえ誹謗中傷、デマを拡散させるところから、今や社会に害をなしているといえよう。

そもそも古代、聖書の時代より医療と宗教は一体化していたが、やがて時のローマ教皇により外科手術などの医療行為は悪魔の所業であると断罪され、それに従事する者たちは激しく弾圧を受け、その結果として彼らは異端として地下に潜りながらも科学と結

びつきながら成長、進歩していったのである。

つまり、現在の医療は科学の一分野であり、科学は森羅万象ある限り前進と進歩を義務付けられているといっても過言ではない。

したがって当然、医療も進歩発展する宿命にあるのだ。ところが現在のがん医療において標準治療ファシズムは、自らが行っている標準治療を最善最高と称し、有力な先端医療さえ否定しているのが現実だ。つまり彼らのはがん医療に進歩、発展は必要なしと主張しているに等しい。もし医療が、その進歩を捨てたとすれば、それはもはや科学ではなく似非科学なのである。こうした似非科学ではまさに科学の一分分析手段である統計学のみを金科玉条のように信じ、がんが個別の症状を持っていることに配慮しようとしな。その結果、患者の生命、患者の背景、その人生哲学を置き去りにしてあたかもベルトコンベアのような医療体制が出来上がり、今やそれが全国各地に当たり前のように津々浦々に及んでいるのである。

しかし我々は今、標準治療ファシズムと決別し、ここに患者ファーストの世界を確立するために新たな戦いに打って出よう。

そこで我々はここ大阪の地から世界に向けて、がん撲滅の旗頭として患者ファーストの医療を構築するためにがん医療界をいよいよ本格的に改革することを宣言する。

たとえばPMDAのあり方や審査の透明性を確保し、これまで散見されたようなG47Δウイルス療法やMuse細胞に対する不可解なジャッジが起ることを防ぎ、適正かつ透明な競争原理が導入されるように改革を迫り、ゲノム医療のあり方や抗がん剤の副作用の軽減化を国家で目指すこと。さらに置き去りにされてきた感がある小児がん、難治性がん、希少がん患者に対する救出方法の戦略・戦術化。こうしたことをニューフロンティアに向けて地ならしを行うのである。

今や日米両国ががん撲滅に向けて動き出した以上、このチャレンジは誰も止めることはできない。もしがん撲滅を阻止したい勢力が存在し続けるとしたら、それはもはや悪魔の所業である。

我々は目覚めなければならない。これまでの古いがん医療にピリオドを打ち新しいがん医療の体制を構築するためにも、再びがん撲滅のニューフロンティアを目指し、世界の人々と連携しながら人類をがんから解放していこうではないか！

最大の敵は、それが不可能だと信じ込んでいる自分自身なのである。

さあ、一人でも良い。立ち上がり、雄々しく前進を開始しよう！

『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』 実行委員会

大会長 原文人

実行委員会一同



患者さんの
大切な人生を守る挑戦は、
きっと叶えられる。

NEVER SAY NEVER

ロート製薬の「NEVER SAY NEVER」

この言葉には、世の中を健康にするためにどんな困難にもめげず、
常識の枠を超えてチャレンジし続けるという意味が込められています。

世界がん撲滅サミットの挑戦に、

私たちは深く共感し、その活動に協賛いたします。



**ロート製薬は、
世界がん撲滅サミットを応援しています。**

大阪府立国際会議場は
世界がん撲滅サミット2022 in Osakaを
応援しています。

大阪府立国際会議場はお客様の様々なニーズにお応えし、
快適で魅力溢れる空間をご提供します。

(利用例) 国際会議、学会、研究発表会、式典、企業会議、展示会など



【お問い合わせ先】

☎ 06-4803-5585 <https://www.gco.co.jp/>

株式会社大阪国際会議場

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号

一時的な精神的ストレスがかかる状況での

ストレス緩和 睡眠の質向上



宅配商品

機能性表示食品
(製品・成分評価)

ヤクルト史上最高密度の「乳酸菌 シロタ株」を含んでいます。

〈乳製品乳酸菌飲料〉100ml

届出表示:本品には乳酸菌 シロタ株(L. カゼイ YIT 9029)が含まれるので、一時的な精神的ストレスがかかる状況でのストレスをやわらげ、また、睡眠の質(眠りの深さ、すっきりとした目覚め)を高める機能があります。さらに、乳酸菌 シロタ株(L. カゼイ YIT 9029)には、腸内環境を改善する機能があることが報告されています。

●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。●本品は国の許可を受けたものではありません。

株式会社ヤクルト本社 〒105-8660 東京都港区海岸1-10-30

人も地球も健康に
Yakult

SDGsで 未来を照らす

社会課題の解決に向けたSDGs取組

地球環境との 共生



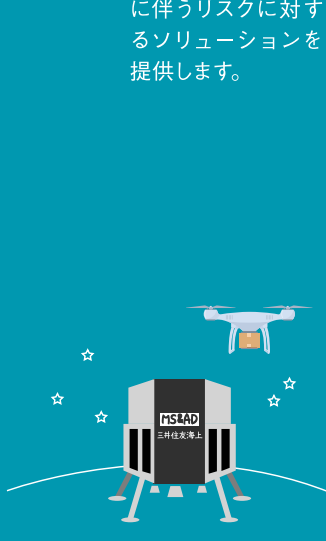
脱炭素社会への移行や自然資本・生物多様性の保全・回復に資する商品・サービス、気候変動への適応策の提供を通じて、自然と調和した経済・社会を目指します。



革新的 テクノロジー



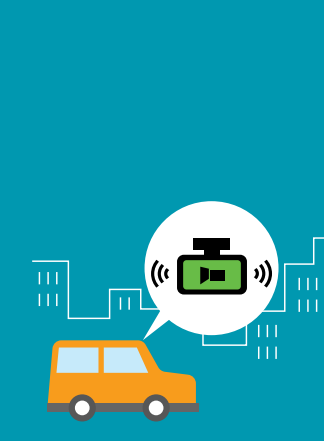
自動運転や社会のIoT化に伴うサイバーリスクの発現を未然に防止する商品・サービスの開発や新しい産業創出に伴うリスクに対するソリューションを提供します。



強靱性・回復力



社会インフラの老朽化や災害に強いまちづくりに対して、データやAIを活用した防災・減災の提案、早期復興対策など新たな価値を提供します。



包摂的社会



誰もがアクセスしやすい商品・サービスの提供や、バリューチェーンまで含めた人権課題への対応、ダイバーシティ&インクルージョンの推進などに取り組みます。



立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



東レによるがん領域の開拓

先端材料の ライフイノベーション 分野展開

乳がん患者様向け
ハーフトップ



HugFit®

がん研有明病院と共同で、乳がん患者様の術後の放射線皮膚炎をケアしつつ快適に過ごせる患者様向け衣料を上市しました。
(2016年)



次世代の革新的がん治療法として世界中で注目・検討されているがんの抗体医薬に着目し、研究・技術開発に取り組んでいます。

東レのコア技術

有機合成化学
高分子化学
バイオテクノロジー
ナノテクノロジー

先進医薬

がん抗体医薬の開発

先制医療

(がん早期診断システム)

DNA チップを用いて
開発



13種類のがんと認知症を対象に、国立がん研究センターなどと連携。国内早期の診断薬申請を目指すと共に、米国への展開も予定しています。

life
innovation

東レのライフイノベーションへの取り組みには、2つのカテゴリーがあります。1つめは、東レのさまざまな事業分野の**先端材料**を、医薬品・医療機器用資材、先進診断装置用部材などの**ライフイノベーション分野へ展開**すること。2つめは医療分野で、**先進医薬**と、病気を早期に発見し治療してしまうという、**先制医療**がキーワードです。



生薬には、
個性がある。



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く) 2021年4月制作 (審)

再生医療の明日を拓く 「セラボヘルスケアサービス」始動



再生医療分野への新たな挑戦

ダイダシ株式会社では、再生医療の普及と関連事業の創出を目指して、2017年4月にオープンラボ「セラボ殿町」を開設し、医療施設やベンチャー企業の皆様に、新発想で使いやすい細胞培養加工施設（CPF）や、細胞培養加工に適した環境を構築する製品を開発してきました。

『セラボヘルスケアサービス株式会社』は、ダイダシ株式会社がこれまで培ってきた技術と実績を引き継ぎ

- ・細胞培養加工施設（CPF）の運用・構築コンサルティング、設計・監理
- ・再生医療向けの装置・機器類の製造・販売
- ・細胞培養加工施設（CPF）のレンタル、運用支援、細胞製造受託など

をはじめとした関連サービスを開拓して参ります。



セラボヘルスケアサービス株式会社

<https://cellabhs.co.jp/>

ダイダシ株式会社

<https://www.daidan.co.jp/>

【お問合せ先】

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番22号 ライフイノベーションセンター R407
TEL: 044-276-5010 FAX: 044-280-0036 e-mail: cellab-info@daidan.co.jp

生命保険協会は

超高齢社会を支えていくために
様々な取り組みを進めています。



相談・苦情受付

【生命保険相談所の運営】

生命保険相談所では、生命保険に関する相談や苦情について、お客様の疑問や悩みを整理し、解決に向けたアドバイスを行います。



高齢者への情報提供

【高齢者向け情報冊子の発行】

高齢者を対象とした、保険の加入から受取りに至るまでのあらゆる場面に関する情報や留意点をまとめた情報冊子を発行しています。

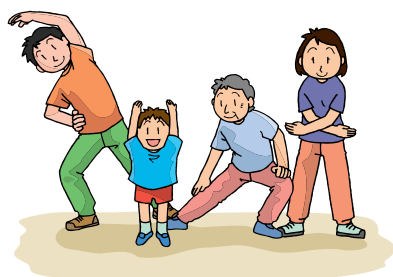


特殊詐欺の注意喚起

【被害防止啓発ポスターの作成】

オレオレ詐欺や架空請求詐欺など特殊詐欺被害防止のための啓発ポスターを作成し、注意喚起を行っています。

健康増進啓発活動



【健康寿命の延伸に向けた啓発活動】

健康寿命の延伸に向けた啓発活動を積極的に推進するために、全国各地のウォーキング大会に協賛しています。また、健康づくりに役立つ情報冊子の配布なども行い、健康増進に対する意識の向上に取り組んでいます。

生命保険協会ホームページでは、
様々な情報を掲載しています。
是非ご利用ください。

<http://www.seiho.or.jp>

生命保険協会

検索





日本建設業連合会は 社会貢献活動を推進しています

アイサワ工業(株)	青木あすなろ建設(株)	あおみ建設(株)	浅沼組(株)	安藤・間(株)
伊藤組土建(株)	岩田地崎建設(株)	(株)大林組	(株)大本組	(株)奥村組
オリエンタル白石(株)	鹿島建設(株)	鹿島道路(株)	株木建設(株)	北野建設(株)
(株)熊谷組	(株)鴻池組	五洋建設(株)	佐藤工業(株)	三幸建設工業(株)
清水建設(株)	ショーボンド建設(株)	西武建設(株)	(株)銭高組	大成建設(株)
大成ロテック(株)	大日本土木(株)	大豊建設(株)	高松建設(株)	(株)竹中工務店
(株)竹中土木	鉄建建設(株)	東亜建設工業(株)	東急建設(株)	東洋建設(株)
戸田建設(株)	飛島建設(株)	(株)ナカノフドー建設	西松建設(株)	(株)NIPPO
日本道路(株)	日本国土開発(株)	(株)長谷工コーポレーション	(株)ピーエス三菱	(株)福田組
(株)フジタ	(株)不動テトラ	(株)本間組	前田建設工業(株)	前田道路(株)
松井建設(株)	(株)松村組	三井住友建設(株)	みらい建設工業(株)	村本建設(株)
寄神建設(株)	りんかい日産建設(株)	若築建設(株)		

日建連「社会貢献活動協議会」構成58社

魅力的なまちづくりの推進や 豊かな住生活の実現を通じ、 日本経済の持続的な成長に 貢献してまいります。

昭和38年3月に社団法人として設立された不動産協会は、国民生活の向上と日本経済の持続的な成長に向け、土地、都市、住生活などに関わる諸問題について、様々な政策提言を行うとともに、調査・研究、社会貢献活動等に取り組んでおります。

今後も、大都市の国際競争力の強化、魅力的なまちづくりの推進、豊かな住生活の実現、環境への取組み等を通じ、ポストコロナも見据えた持続的な成長の実現に貢献してまいります。

一般社団法人 **不動産協会**

理事長 菰田 正信

事務局 〒100-6017 東京都千代田区霞が関3丁目2番5号(霞が関ビル17階)
電話 (03) 3581-9421 <http://www.fdk.or.jp>

大阪事務所 〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番18号(住友中之島ビル2階)
電話 (06) 6448-7460

名古屋事務所 〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47番1号(名古屋国際センタービル8階)
電話 (052) 571-8050



株式会社 エフ・アール・シー・ジャパン

社会実装への挑戦

日本発の、世界の人々に大きな貢献をする可能性のある研究や研究者を支援し、研究支援態勢や研究支援インフラを構築するために、様々なジャンル（事業・人材・テクノロジー・メディア・金融・不動産・制度政策）を繋ぎ、実装の実現に挑戦し続けます。



MIRAI TRUST
INCORPORATED

JP Alliance

JP アライアンス株式会社

夢なき者に 理想なし

— 吉田松陰 —

世の中を変えていくパイオニアは、制限の無い発想と熱意で満ちています。

そして、才能がある人も努力する人も大勢いる中で、活躍できる人材はほんの少しです。

現状に必要な情報を集め分析し、支援のための資金をつくり、未踏に躊躇なく突き進める

「人と熱意」を育てることで社会に還元していく。

そんな国の未来を創る人材を、

私たちは輩出していきたい

と考えています。



一般財団法人 未来人材基金

<https://mirajin.org>

©Photo:Wikipedia Commons.public domain

Things Technology

波はぶつかり干渉しあうと、何倍にもなったり何分の1にもなったり。

単純な波の組み合わせで、無限の形が生まれます。

これまでの使い方を変えたり、異なるものを結びつけたり。

情報を交流させ、最適なテクノロジーがぶつかると、

波が干渉しあって大波になるように

大きく「モノ」の価値は変化します。

私たちは、IT やフィナンシャルテクノロジーを使って、

あらゆるモノの「新しい価値」を

創造して参ります。



未来はあなたの想いで創られる

人間は、命ある限りの航海をし続ける運命にあります。

それは寄港地はあっても最終の目的地はない航海です。

そしてその航海の向かう先には、わたしたちの未来があります。

未来が予測不可能な厳しい時代となったからこそ、

今ここにある現実を、常にしっかりフォローすることが何よりも必要です。

ジャイロスコップを携えて、想いの舵をとり、共に未来を創って参りましょう。



PRD 株式会社・未来ネット株式会社
YouTube 配信中



アーク不動産株式会社

本 社

〒541-0042 大阪府中央区今橋2丁目5番8号 トレードピア淀屋橋
TEL. 06-6231-7721 (代表) FAX. 06-6231-7722

東京支店

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目12番5号 京橋YSビル6階
TEL. 03-5159-2136 (代表) FAX. 03-5159-2175

名古屋支店

〒450-6040 名古屋市中村区名駅一丁目1番4号 JRセントラルタワーズ40階
TEL. 052-307-6301 (代表) FAX. 052-307-6302

福岡支店

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目8番19号 大福ビル
TEL. 092-738-5790 (代表) FAX. 092-738-5791

<http://www.ark-re.co.jp>



パッケージを通して、 暮らしに安全と安心を

私たちは、暮らしを支える安全で安心なパッケージをつくり続けてまいります



OSPグループは、“世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA”を支援します



【国内グループ会社】

- 株式会社OSPホールディングス
- OSPマシナリー株式会社
- OSPハートフル株式会社

【海外グループ会社】

- PRIMARK AMERICA CORPORATION
- OSP LABEL (THAILAND) CO., LTD.

- 大阪シーリング印刷株式会社
- 株式会社OSPトレーディング
- OSPレーベルストック株式会社

- 大阪希琳閣印刷(蘇州)有限公司
- OSP CEBU CORPORATION

- OSPアドバンス株式会社
- OSPゴールドシー株式会社
- プリントビズ株式会社

- 威海延豊膠粘印刷有限公司
- OSP AUSTRALIA PTY LTD



www.osp-group.jp

さまざまなニーズに合わせた
総合不動産会社です



ジャパン エステート株式会社

本 社 〒541-0042
大阪府中央区今橋2丁目5番8号トレードピア淀屋橋16F
TEL : 06-6233-3188 FAX : 06-6233-3187

東京支社 〒104-0061
東京都中央区銀座1-2-4サクセス銀座ファーストビル6F
TEL : 03-5159-1238 FAX : 03-3564-0040
URL : <http://www.jpe.co.jp>



Medical Service

メディカルサービス 株式会社

医療と保育を通して人々の笑顔のために



〒530-0013 大阪市北区茶屋町3番1号



TOSHIKAN

都市環境開発 株式会社

私たち日本地工は、
お客様にとって価値のある
製品・サービスを
ご提案いたします。
オリジナリティーを追求した製品で、
お客様に感動を。

● アンカー事業 ● アース事業 ● 鋼製基礎事業 ● 緑化・農園芸事業



日本地工株式会社

本社・工場／埼玉県川口市江戸袋2-1-2 TEL 048-283-1111
支社／札幌・仙台・大阪・福岡 営業所／関東各県・八戸・新潟・名古屋・広島

日本地工

<https://www.chiko.co.jp/>

IDÉRA
CAPITAL MANAGEMENT

ALSOOKの介護

目指すのは「最高の介護品質」です。

お客様に寄り添い
自分らしい
暮らしをサポート

サービス改善

お客様からのご意見や、日々の気づきもサービス内容の改善につなげます

人財確保・育成

高度な介護サービスも果たせる人材を育成しています

デジタル化推進

サービス内容の高度化も、職員の新規研修に結びつけるICT活用を推進します

多職種連携

様々な職種の方との連携を強化し、地域包括ケアの推進にも貢献します

「ALSOOKの介護」のサービス特長

- ① あらゆるお客様に対応したサービス体制
毎日のみまもりから、在宅・施設介護まで充実のラインアップ
- ② 充実の健康増進メニュー
身体状況に応じた医療・リハビリ提供、充実の認知症対応
- ③ 安全安心を最優先
お客様の生活空間に安全安心なサービスを提供、防災対策も充実
- ④ 安定した経営・財務基盤
ALSOOKグループの安定した経営・財務基盤

笑顔あふれる
毎日をサポートします!

各種介護サービス（有料老人ホーム、居宅介護支援、訪問介護、デイサービス等）

運営会社

ALSOOK 介護 ☎ 0120-294-772

〒100-0001 東京都中央区本町1-1-1

ALSOOK ジョイライフ ☎ 0120-911-517

〒100-0001 東京都中央区本町1-1-1

らいふ ☎ 0120-033-508

〒100-0001 東京都中央区本町1-1-1

ALSOOK ライフサポート ☎ 072-868-0321

〒565-0871 大阪府東淀川区

訪問医療マッサージ

ケアプラス ☎ 0120-8556-39

〒100-0001 東京都中央区本町1-1-1

〒100-0001 東京都中央区本町1-1-1

〒100-0001 東京都中央区本町1-1-1

〒100-0001 東京都中央区本町1-1-1

TOTOのユニバーサルデザイン

つくるって、人を思うこと。

どんな人が使うかを、思う。
その人はどんなことに困るかを、思う。
その人はどうすれば快適かを、思う。
できる限りたくさんの「その人」を、思う。

モノをつくる時、空間をつくる時、
TOTOが最初から最後まですることは、人思い。
すべての人の、よりよい暮らしのために、
とことんすべきことは人思いしかない。
優しさと知恵と技術と努力。

ユニバーサルデザインは、TOTOのすべてです。



商品のお問い合わせは TOTOお客様相談室 ☎0120-03-1010 受付時間 9:00~17:00(夏期休暇・年末年始を除く)
TOTOユニバーサルデザインサイト <https://jp.toto.com/ud>

環境事業

土木

建築

型枠

自然と社会と心の調和そして融合



株式会社 オキ・コーポレーション

〒210-0821

神奈川県川崎市川崎区殿町 2-3-15

TEL 044-280-1701 FAX 044-280-1702

URL www.oki-cp.co.jp

OKI
CORPORATION

代表取締役会長 沖山 朝紀

代表取締役社長 飯田 正信

～世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA は『患者の権利 2022』を応援します!～

【患者の権利 2022】

2019年6月に「がん遺伝子パネル検査」が保健承認されました。これにより、がん種別治療から遺伝子変異に合わせたがん治療が始まっています。所謂プレジジョン医療(オーダーメイド治療)の流れが、世界のがん治療のトレンドになると思います。しかし、日本では「がん遺伝子パネル検査」は、「標準的治療が終了し、他の治療を検討している」「標準的治療がない」「原発不明がん」「希少がん」「小児がん」等にしか認められていません。すい臓がんの場合、標準治療終了後では間に合わないことが多いのです。そこですい臓がん等難治性がんについては早い段階で「がん遺伝子パネル検査」を受けられるようにして頂きたい。

また、プレジジョン医療ではこれまでのような3相治療は現実的ではないので、1相または2相で効果の有った治療法は可能な限り早く承認して頂きたい。

上記は、今私が感じていることですが、膵臓がん罹患から11年半、3回の手術、6年間の共存経験から、患者の望むがん治療が、一部医師や病院により否定されていることが有ります。例えば、

- ・セカンドオピニオンを認めない。
- ・紹介状・画像・組織を他の医療機関に提供しない。
- ・治療法がほぼ底をついた患者が、標準治療以外を口にした途端「出て行け」と言う。

本来、治療は医師と患者がコミュニケーションを取り、幾つかの治療法から最終的に患者が決定するものだと思います。専門分野における医師の知識は素晴らしいと認めますが、新しい治療法については、必ずしも全ての医師が熟知している訳ではありません。また、化学療法については「がん拠点病院」では標準化が進んでいますが、個別の治療法が提供可能な病院も有ります。患者としては、セカンドオピニオンを求めること、現在掛かっている病院が提供できない治療を受けたい、と思うのは必然的だと思います。

そこで「患者の権利 2022」として、患者の求めがあれば全ての医療機関が

- (1) 治療経緯を記載した紹介状を速やかに発行
- (2) 画像データの開示
- (3) 手術後のがん組織の提供
- (4) がん拠点病院として、その患者の治療経緯のデータ保存
- (5) 紹介状発行後の継続治療の保証と治療拒否の撲滅

を行うことを求めます。

がん医療が患者のために変わることを祈っています。

すい臓がんサバイバー 高村 僚

みやび坂総合法律事務所は、JR 新宿駅から徒歩 5 分の
リンクスクエア新宿に所在する法律事務所です。

弁護士の高橋淳、光野真純及び宮川利彰は、がん患者及び良心的な
がん専門医を法的観点からサポートする業務を行っております。

取扱業務

- ◆ がん患者の休職および退職に関する法律問題
- ◆ 不当に高額な診療請求等についての対応
- ◆ クレイマー患者等に対する対応
- ◆ 医療法人の経営等に関する法律問題（労務問題を含む）
- ◆ がん患者及び家族に対するサポート
- ◆ その他、がん関連法務全般



弁護士・弁理士 高橋 淳

(東京弁護士会所属)

1998年 弁護士登録。
2003年 日弁連知的所有権委員会(現:日弁連知財センター)委員に就任。
2005年 経済産業省主催の「営業秘密の適正管理のあり方に関する研究会」の委員に就任。
2005年 特許庁工業所有権審議会臨時委員に就任。
2008年 日弁連知財センター委員に就任。
2014年 工業所有権審議会試験委員(弁理士試験)に就任。



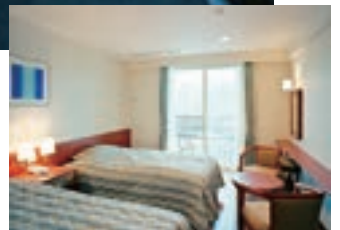
みやび坂総合法律事務所

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 リンクススクエア新宿16階
TEL:050-5534-8882 FAX:03-6701-7231

「いのち」とつながるお水です。

届きたいのは

「ミネラルウォーター 月のしずく」



「月のしずく」は天然温泉施設「ゆの里」に湧く地下水「金水」と地下1187メートルから湧く温泉水「銀水」をブレンドしたミネラルウォーター。「ゆの里」はもとより、隣接するお水の宿「この」でも、「月のしずく」を使ったお風呂や料理が堪能できます。

天然温泉 **ゆの里**

〒648-0086 和歌山県橋本市神野々898
TEL 0120-090-032 FAX 0120-342-326

ゆの里 お水の宿 **この**

〒648-0086 和歌山県橋本市神野々895
TEL 0736-32-7747 FAX 0736-32-7712

「ゆの里」公式ホームページ <https://www.spa-yunosato.com>

60th anniv.

Since 1961.9.21



Image Creation & Information Services
Express

本大会開催にあたり、ご支援、ご協力をいただいた皆様、あえてお一人おひとりのお名前を挙げておりませんが心より感謝申し上げます。

来年も11月3日(金・祝)

『世界がん撲滅サミット2023 in OSAKA』

を開催致します。

引き続きご支援、ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA
実行委員会一同

ついに米国が 2047 がん撲滅宣言！

**世界よ！力を合わせて
がん患者の生命を救おう！
ただそれだけだ！**

開催決定！

～ 2025大阪・関西万博成功祈念～

**世界がん撲滅サミット 2023[®]
in OSAKA**

参加無料（要事前予約） <https://cancer-zero.com>

2023年11月3日（金・祝日）

開演／13:00 【開場／12:30】

会場／大阪国際会議場

※2022年11月3日現在の予定です

主催 | 世界がん撲滅サミット 2023 実行委員会

共催 | アライアンス・フォーラム財団

後援
（予定）

大阪府、大阪市、兵庫県、一般社団法人 大阪府医師会、大阪府医師協同組合、公益社団法人関西経済連合会
一般社団法人 関西経済同友会、大阪商工会議所、外務省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省
総務省、農林水産省、デジタル庁、AMED 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、公益社団法人日本医師会、一般社団法人 日本癌学会
一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人経済同友会、日本製薬団体連合会
一般社団法人日本建設業連合会、一般社団法人不動産協会、一般社団法人生命保険協会
一般社団法人日本損害保険協会、一般社団法人情報サービス産業協会、一般社団法人ソフトウェア協会
一般社団法人 Medical Excellence JAPAN、読売新聞社 ほか（順不同）